京都工芸繊維大学

大学概要 2019

Applied Biology | Materials Science | Engineering Design | Design

Index

About KIT
02 学長挨拶
03 京都工芸繊維大学の理念／シンボルマーク
04 沿革
06 管理運営組織
07 教育研究組織
08 事務組織
09 学域説明
10 学部における教育
11 大学院における教育

Centers
14 センター・拠点等説明

Organization
20 歴代学長／役職員等

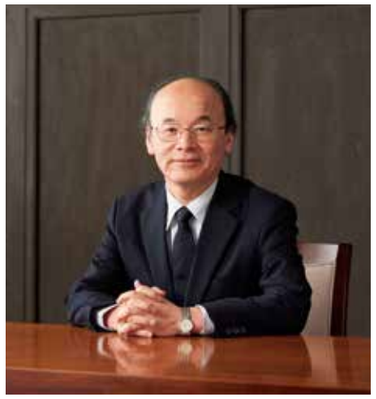
Students
22 学生数
24 入学者選抜実施状況
26 奨学生数／卒業生数
27 修士および博士の学位授与数
28 進路状況

Collaboration
29 国際交流
32 大学開放事業
33 大学間交流
34 大学等連携／小中高大連携
35 地域連携／KIT男女共同参画推進センター

Finance
36 財政状況／外部資金受入状況
37 特許等出願状況

Facilities
38 厚生施設／研修施設／課外活動施設等
39 土地・建物

Others
40 キャンパスマップ
41 アクセスマップ
42 学歌／学年暦



京都工芸繊維大学は、京都にある工科系大学です。この京都にあるということが重要です。千年の都である京都は、日本の文化の本質にあたる部分を生み出してきましたが、同時にものづくりの発信地として多くの「もの」も生み出してきました。それら伝統工芸と言われるものづくりの思想は、単に継承され続けるものではなく、現代でこそ新しい技術革新に活かされるものであります。それは、ものを作る技術を常に人々の生活の中で検証することで社会的なイノベーションを生み出そうとする思想であり、そうした思想を生む京都という場のもつ力を、実際の工学の研究・教育として実践する、それが本学のミッションです。

どのような人材を育成するのか。本学で育成するのは、単なる技術者ではありません。工学の基礎的知識・技能に基づいてリーダーシップを発揮し、様々な社会的プロジェクトを成功に導くことができる人材「テック・リーダー」の育成を目指します。そのために、専門力、リーダーシップ力、外国語運用能力、文化的アイデンティティ精神の4つを工繊コンピテンシーとして位置付け、それらを確実に高めることのできる教育プログラムを、工芸科学部6課程、大学院工芸科学研究科博士前期課程14専攻、博士後期課程8専攻のすべてにおいて構築します。

もうひとつ目指しているのは、「デザイン・シンキング」の実践です。社会的なイノベーションは、専門に特化した研究だけでは実現できません。広範な分野の融合が必要です。しかし、単に集まるだけでは何も生まれません。「どのようにすればその融合がイノベーションを生み出すことができるのか」という課題の解決を広い意味でのデザインと考え、その解法を導き出し実践する思考をデザイン・シンキングとして捉えます。その実践のために、世界一線級のデザイナー、建築家との連携活動の拠点となる「KYOTO Design Lab」を設置し、デザイン・シンキングの思想や方法を創出するプロジェクトを展開してきました。そこからさらに、専門分野の枠を超えて繊維・高分子研究拠点、グリーンイノベーション研究推進拠点、昆虫先端研究推進拠点などにも拡大することで、大学全体でデザイン・シンキングを方法的基盤とする体制を構築します。

こうしたチャレンジに欠かせないのが、「連携」です。それは工学の教育・研究を捉える視野を広げることです。世界的な視野から評価する視点を導入することは、すでにKYOTO Design Labなどの国際連携の実践として多くの成果をあげつつあります。そして、地域社会や企業からの視野については、京都府北部の福知山市に設けたキャンパスを中核として、そこをベースとする分野横断型の地域創生 Tech Programの展開や、京丹後、綾部拠点との有機的連携など、強固な地域連携の事業として進めているところです。

京都から世界に向け、新しい工学のイノベーションの波を創り出す。本学の挑戦は続きます。

学長　森迫 清貴

京都工芸繊維大学の理念

京都工芸繊維大学は、遠く京都高等工藝学校及び京都蚕業講習所に端を発し、時代の進展とともに百有余年にわたり発展を遂げてきた。本学は、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきた。本学は、自主自律の大学運営により国立大学法人として社会の負託に応えるべく、ここに理念を宣言する。

基本姿勢 ――― 京都工芸繊維大学は、未来を切り拓くために以下の指針を掲げ、教育研究の成果を世界に向けて発信する学問の府となることを使命とする。

- 人類の存在が他の生命体とそれらを取りまく環境によって支えられていることを深く認識し、人間と自然の調和を目指す。
- 人間の感性と知性が響き合うことこそが、新たな活動への礎となることを深く認識し、知と美の融合を目指す。
- 社会に福祉と安寧をもたらす技術の必要性を深く認識し、豊かな人間性と高い倫理性に基づく技術の創造を目指す。

研　　究 ――― 京都工芸繊維大学は、建学以来培われてきた科学と芸術の融合を目指す学風を発展させ、研究者の自由な発想に基づき、深い感動を呼ぶ美の探求と卓越した知の構築によって、人類・社会の未来を切り拓く学術と技芸を創成する。

教　　育 ――― 京都工芸繊維大学は、千年の歴史をもつ京都の文化を深く敬愛するとともに、変貌する世界の現状を鋭く洞察し、環境と調和する科学技術に習熟した国際性豊かな人材を育成する。
そのため、自らの感動を普遍的な知の力に変換できる構想力と表現力を涵養する。

社会貢献 ――― 京都工芸繊維大学は、優れた人的資源と知的資源とを十分に活かし、地域における文化の継承と未来の産業の発展に貢献するとともに、その成果を広く世界に問いかけ、国際社会における学術文化の交流に貢献する。

運　　営 ――― 京都工芸繊維大学は、資源の適正で有効な配置を心がけ、高い透明性を保ちつつ、機動的な判断と柔軟かつ大胆な行動をもって使命を達成する。

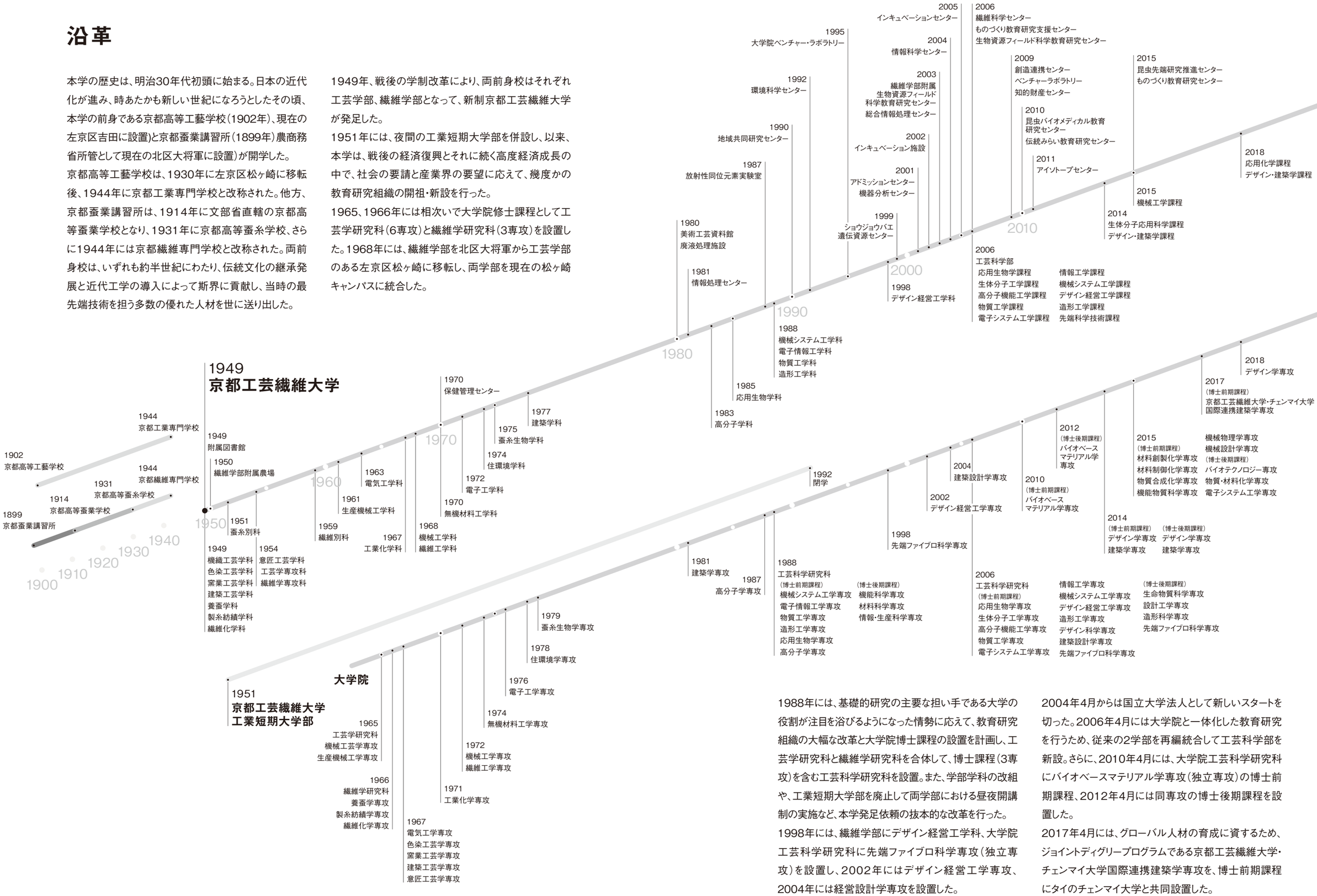
シンボルマーク

国立大学法人となった本学の新理念と姿勢をビジュアル化するため、新たなシンボルマークが2005年7月に学内公募により制定された。
新シンボルマークには「知性と感性の響き合い」「知と美の結びつきと技」「伝統文化と先端科学の融合」の3つのテーマが反映されている。
左側の丸みを帯びたフォルムは芸術と既存の形式にとらわれない柔軟な感性や豊かな人間性、右部分のシャープなフォルムは科学と人間の理論的な知性や理性をイメージした。そして、左部分の人間をとりまく自然環境と右部分の人間が作り出す技術の2つが融合することにより、「科学と芸術の出会い」や「自然環境と科学技術の共生」を表現している。
また、1つの根元から大きく広がりいく形態は、歴史的な古都である京都から世界に向けて人間・環境・産業・文化調和型の個性あふれる先端テクノロジーを発信していく様子を表し、それを可能にする確かな力量と豊かな感性のひろがりを示している。
色彩は京都の伝統を感じさせる落ち着いたトーンで統一している。感性を表す左部分は柔らかく伸びやかな印象を与える暖色系、理性を表す右部分は冷静で堅実な印象を与える寒色系を配した。

沿革

本学の歴史は、明治30年代初頭に始まる。日本の近代化が進み、時あたかも新しい世紀になろうとしたその頃、本学の前身である京都高等工藝学校（1902年）、現在の左京区吉田に設置)と京都蚕業講習所（1899年）農商務省所管として現在の北区大将軍に設置）が開学した。
京都高等工藝学校は、1930年に左京区松ヶ崎に移転後、1944年に京都工業専門学校と改称された。他方、京都蚕業講習所は、1914年に文部省直轄の京都高等蚕業学校となり、1931年に京都高等蚕糸学校、さらに1944年には京都繊維専門学校と改称された。両前身校は、いずれも約半世紀にわたり、伝統文化の継承発展と近代工学の導入によって斯界に貢献し、当時の最先端技術を担う多数の優れた人材を世に送り出した。

1949年、戦後の学制改革により、両前身校はそれぞれ工芸学部、繊維学部となって、新制京都工芸繊維大学が発足した。
1951年には、夜間の工業短期大学部を併設し、以来、本学は、戦後の経済復興とそれに続く高度経済成長の中で、社会の要請と産業界の要望に応えて、幾度かの教育研究組織の開祖・新設を行った。
1965、1966年には相次いで大学院修士課程として工芸学研究科（6専攻）と繊維学研究科（3専攻）を設置した。1968年には、繊維学部を北区大将軍から工芸学部のある左京区松ヶ崎に移転し、両学部を現在の松ヶ崎キャンパスに統合した。



1988年には、基礎的研究の主要な担い手である大学の役割が注目を浴びるようになった情勢に応えて、教育研究組織の大幅な改革と大学院博士課程の設置を計画し、工芸学研究科と繊維学研究科を合体して、博士課程（3専攻）を含む工芸科学研究科を設置。また、学部学科の改組や、工業短期大学部を廃止して両学部における昼夜開講制の実施など、本学発足依頼の抜本的な改革を行った。
1998年には、繊維学部にデザイン経営工学科、大学院工芸科学研究科に先端ファイブロ科学専攻（独立専攻）を設置し、2002年にはデザイン経営工学専攻、2004年には経営設計学専攻を設置した。

2004年4月からは国立大学法人として新しいスタートを切った。2006年4月には大学院と一体化した教育研究を行うため、従来の2学部を再編統合して工芸科学部を新設。さらに、2010年4月には、大学院工芸科学研究科にバイオベースマテリアル学専攻（独立専攻）の博士前期課程、2012年4月には同専攻の博士後期課程を設置した。
2017年4月には、グローバル人材の育成に資するため、ジョイントディグリープログラムである京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を、博士前期課程にタイのチェンマイ大学と共同設置した。

管理運営組織

2019年4月1日現在

- 学長選考会議
- 学　長
  - 学長室
  - 監査室
- 監　事
- 経営協議会
  - 学内委員
  - 学外委員
- 役　員　会
  - 学長
  - 理事（4名）
  - 大学戦略キャビネット
  - 人事委員会
  - 財務委員会
  - 施設委員会
- 教育研究評議会
  - 学長
  - 理事
  - 副学長
  - 研究科長
  - 副研究科長
  - 各学系長
  - 各学域長
  - 広報委員会
  - 大学評価室
  - KIT男女共同参画推進センター
  - 環境安全保健委員会
  - 情報統括室

京都工芸繊維大学

- 学　長
- 大学院工芸科学研究科（研究科教授会）：博士前期課程　14専攻／博士後期課程　8専攻
- 工芸科学部（教授会）：6課程
- 産学公連携推進センター（運営委員会）
  - 室
    - 連携企画室
    - 知的財産戦略室
    - リカレント教育推進室
- デザイン主導未来工学センター（運営委員会）
  - ラボ
    - KYOTO Design Lab
    - 昆虫先端研究推進拠点
      - ショウジョウバエ遺伝資源研究部門
      - 生物資源フィールド科学研究部門
      - 昆虫バイオメディカル研究部門
    - 先端ものづくり・繊維研究推進拠点
      - ものづくり教育研究センター
      - 繊維科学センター
      - 伝統みらい教育研究センター
    - グリーンイノベーションラボ
    - 新素材イノベーションラボ
  - ゴム科学研究センター
- COC推進拠点
- 教育研究支援組織
  - 附属図書館
  - 美術工芸資料館
  - 情報科学センター
  - 環境科学センター
  - 機器分析センター
  - アイソトープセンター
  - 総合教育センター
  - 学生支援センター
  - アドミッションセンター
  - 国際センター
  - 保健管理センター
  - アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター
- 高度技術支援センター（高度技術支援センター運営委員会）
- 事　務　局

教育研究組織

2019年4月1日現在

京都工芸繊維大学

教育組織（教育課程）

学域	工芸科学部（教授会）		大学院工芸科学研究科（研究科教授会） 博士前期課程	博士後期課程
応用生物学域	応用生物学課程	地域創生 Tech Program	応用生物学専攻	バイオテクノロジー専攻
物質・材料科学域	応用化学課程		材料創製化学専攻	物質・材料化学専攻
			材料制御化学専攻	
			物質合成化学専攻	
			機能物質化学専攻	
設計工学域	電子システム工学課程		電子システム工学専攻	電子システム工学専攻
	情報工学課程		情報工学専攻	設計工学専攻
	機械工学課程		機械物理学専攻	
			機械設計学専攻	
デザイン科学域	デザイン・建築学課程		デザイン学専攻	デザイン学専攻
			建築学専攻	建築学専攻
			京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	
繊維学域			先端ファイブロ科学専攻（独立専攻）	先端ファイブロ科学専攻（独立専攻）
			バイオベースマテリアル学専攻（独立専攻）	バイオベースマテリアル学専攻（独立専攻）
基盤教育学域	言語学科目、数学・物理学科目、人間教養学科目			

教員組織

- 学系（研究戦略推進委員会）
  - 応用生物学系
  - 材料化学系
  - 分子化学系
  - 電気電子工学系
  - 機械工学系
  - 情報工学・人間科学系
  - 繊維学系
  - デザイン・建築学系
  - 基盤科学系

産学公連携推進組織

- 産学公連携推進センター
  - 連携企画室
  - 知的財産戦略室
  - リカレント教育推進室

重点戦略組織

- デザイン主導未来工学センター
  - KYOTO Design Lab
    - 昆虫先端研究推進拠点
      - ショウジョウバエ遺伝資源研究部門
      - 生物資源フィールド科学研究部門
      - 昆虫バイオメディカル研究部門
    - 先端ものづくり・繊維研究推進拠点
      - ものづくり教育研究センター
      - 繊維科学センター
      - 伝統みらい教育研究センター
    - グリーンイノベーションラボ
    - 新素材イノベーションラボ
  - 教育研究プロジェクトセンター
    - ゴム科学研究センター

地域連携組織

- COC推進拠点

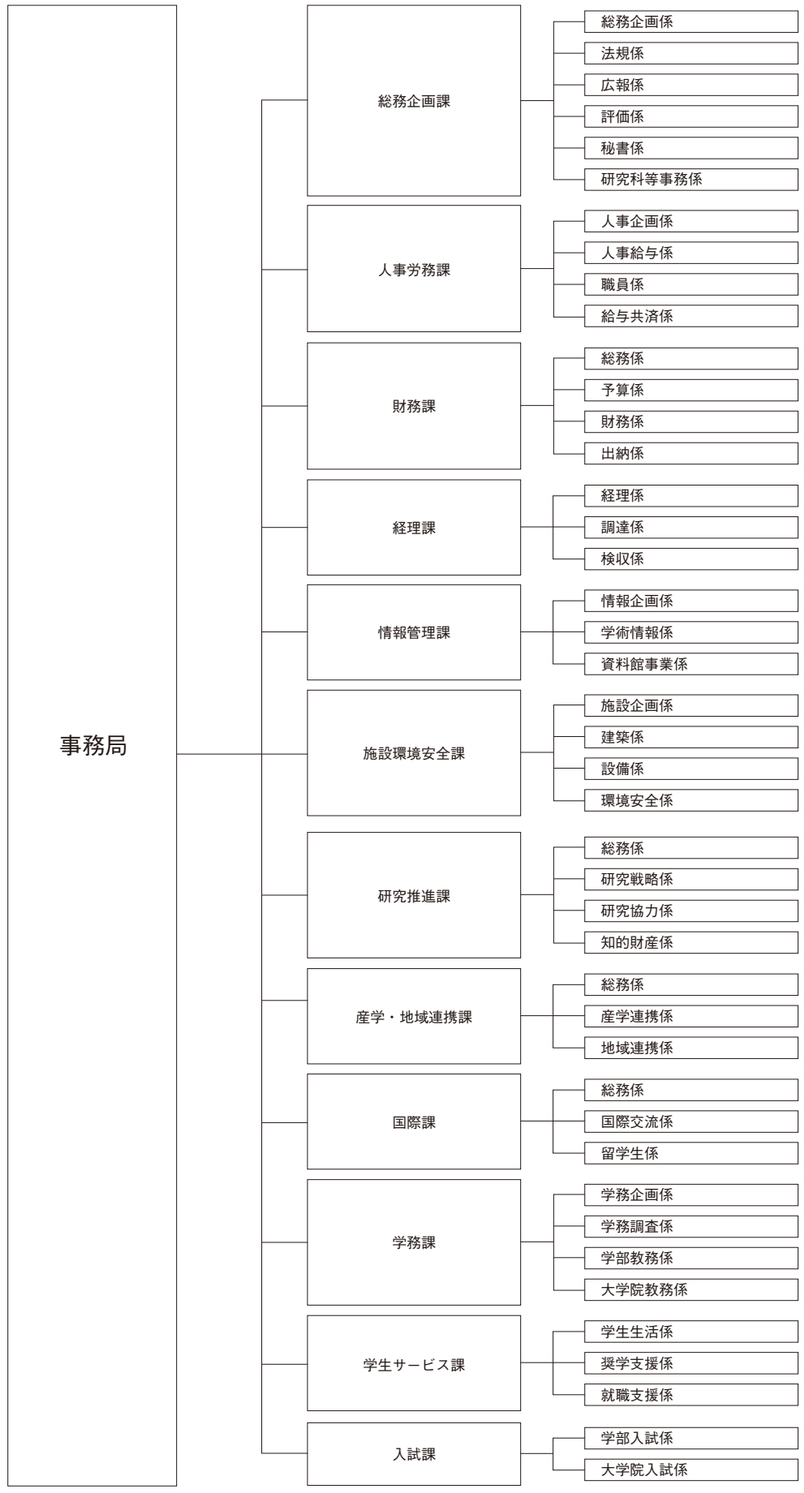
教育研究支援組織

- 附属図書館
- 美術工芸資料館
- 情報科学センター
- 環境科学センター
- 機器分析センター
- アイソトープセンター
- 総合教育センター
- 学生支援センター
- アドミッションセンター
- 国際センター
- 保健管理センター
- アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター

- 高度技術支援センター

事務組織

2019年4月1日現在



学域説明

応用生物学域

21世紀はライフサイエンスの時代と言われている。高齢化、ストレスなどにより増えた癌、脳疾病、アレルギーといった病気の解明・地球環境保全の観点からも、バイオエネルギーの開発、化学物質に依存しない生物農薬、安全な食品の開発などが課題になっている。このような背景のもと、応用生物学域ではこれらの課題を解決できる知識、技能、判断力を備えた高度技術者・研究者を育成する。

物質・材料科学域

今日、汎用の身近な物質や材料から最先端科学を支える物質や材料、エネルギーの生産・貯蔵・輸送を担う物質や材料、環境に優しい物質や材料、生体分子など生命とつながりをもつ物質や材料の革新が、物質科学、材料科学さらには生命科学の発展に必要不可欠なものとなっている。そして、それらの科学領域が相互に結びついて、私たちの社会生活を支えるナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境テクノロジーが発展している。このような背景のもと、本学域では、先端の科学技術や物質・材料について広い視野をもち、次世代の物質・材料の探究・開発ができる人材の育成を目指す。

設計工学域

工学は、数学や物理学、化学、生物学などの基礎理論や自然原理の理解をもとに、社会に役立つ事物や安全で快適な環境を設計し構築することを目的とする学問である。グローバル化と都市化が進み、資源やエネルギーの問題、地球温暖化、超高齢化社会などの課題が顕在化している。工学はこれらの課題解決のためにその重要性を増している。社会に役立つ事物や安全で快適な環境を企画・設計するためには、課題を発見し目的を明確にする必要があり、要求されている事項を理解せずには前に進めない。実際に事物や環境を構築するには、どんな方法が使えるかを知ることや、原理的な限界を理解しておくことが重要である。さらにその方法が最善のものか、むやみに複雑化していない自然な方策であるかという問いかけを自らに課さなければならない。そのためには様々なことを学び理解し、その知識を駆使して総合的に判断する能力を身につけなければならない。設計工学域では事物や環境を構築するための具体的な手法を修得し、有用さや安全性、快適さの視点で総合的な判断ができる技能をもつ高度専門技術者を育成する。

デザイン科学域

社会の様々な課題では、未来技術や再生活用の手法を活用したサービスやビジネスの創造、つまり新たな「デザイン」が期待されている。このモノの造形を越えた、より広い概念を柔軟に社会で実践できる人材の育成を行っている。学部と大学院のカリキュラムは一貫して、社会課題に対するデザインによる解決、つまり、プロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）が基礎となっており、大学院（博士前期課程・博士後期課程）ではより専門性を高めつつ高度な実践力を身につける建築学専攻とデザイン学専攻により構成される。2018年度のデザイン経営工学課程・専攻との統合化によって、教育・研究プログラムのより広い展開と内容の充実化が成されている。

繊維学域

現在繊維は、衣料分野はもとより、医療、繊維複合材料として建築、航空機さらに環境に配慮した材料など、広範囲な産業分野で使われている。繊維学域では、繊維に関係する産業分野での応用展開および新規開拓に関する教育・研究を進めるために、東アジア地域の連携大学との学生主体のシンポジウムや海外から教員を招いての講義も行い、繊維を中心とした広範な学術分野を総合的に理解できる人材養成を目指す。

学部における教育

工芸科学部は、京都工芸繊維大学の理念に基づき、幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力、リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（TECH LEADER）を養成することを目的として設置されている。この目的に則り、学部各課程では、それぞれの専門分野に応じて、教育目標を定め、人材育成を行っている。4学域6課程で構成され、学部共通プログラムとして「地域創生 Tech Program」を設けている。

工芸科学部

応用生物学域

応用生物学課程

生物学と生物化学を基礎として生命現象を研究し、生命、生物資源、グローバルな環境に関わる重要課題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる人材の育成を目指す。

物質・材料科学域

応用化学課程

物質や材料の多様化等を踏まえ、物質、材料、生命現象にかかわる生体関連物質の成り立ちから応用までも俯瞰でき、基礎から応用まで幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身につけた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材の育成を目指す。

設計工学域

電子システム工学課程

スマートフォンや生活家電など、日常生活にとって欠かせない存在となっている電子システムの基礎から応用までに関する教育と、最先端の研究を通じて、電子機器、自動車、ロボット、電力などの基幹産業でリーダーとなり活躍できる人材の育成を目指す。

情報工学課程

製造・サービスなどの様々な産業の根幹を支えるICT分野でリーダーシップをとって活躍する人材、およびICTを活用したシステムの開発やサービスの創出・提供によって豊かな情報社会の構築に貢献する人材の育成を目指す。

機械工学課程

人と地球にやさしい社会の実現に向け、最先端の科学・技術を用いて、新しい機械の開発やシステムの構築ができる人材の育成を目指す。

デザイン科学域

デザイン・建築学課程

地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。これを＜KYOTOデザイン＞と銘打つ。それは、
①生きた伝統と先進的マインドで生活を革新するデザイン力
②持続する京都で構想される未来起点の再生・価値想像力
③グローバルな知が揺籃される京都で可能なボーダーを超越した起業力
で構成され、課程教育においては、このための基礎能力を開発する。

地域創生 Tech Program

地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、課程の専門知識および技術をベースに、グローバルな視野で協働することができる素養を身につけ、さらにアントレプレナー（起業家）精神、知的財産に関する知識を修得する。

大学院における教育

大学院工芸科学研究科では、科学技術と人間とがより良く結びついた「人間的な科学技術」を探求し、新たな高度技術の開発とともに、新しい技術と人間・社会との関わりを含めた総合的な教育研究を行っている。
また、すべての専攻で社会人の受け入れを行っている。

博士前期課程

応用生物学域

応用生物学専攻

生命現象の本質の解析、環境と健康の向上に寄与する最先端技術の開発を目指している。また、生物・化学・物理などの基礎知識だけでなく、生命と自然への豊かな感受性、様々な自然現象への深い関心、興味に根ざした探求心・観察力で、未だ解明されていない生命現象への飽くなき追求を目指す。

物質・材料科学域

材料創製化学専攻

実用レベルにおける世界水準の性能・機能を持つ革新的な材料創製を教育研究の中核課題に据え、有機、無機材料からハイブリッド材料にわたる広範な材料を更に高次に集積化することにより、光学材料、光電子材料、分離材料、高温材料などにおける革新を目指す。

材料制御化学専攻

高い機能を持った材料を開発するためには、目標を定めた系統的方法で有用な性質を探す必要がある。材料制御化学専攻は、材料開発の中でそのような役割を担う専攻である。物質を材料として使えるものにする、極めて重要な段階を担っていると言える。

物質合成化学専攻

原子・分子から高度な機能と性能を有する材料に向かうボトムアップのアプローチに基づいて、分子レベルからの材料設計と精密合成、さらには、構造変換や分子組織化に関わる教育研究を総合的に展開する。

機能物質化学専攻

生命活動に関わる多様な生体関連物質の構造と機能を計測・解析し、その知見を基にして物質の機能性を制御し、さらには機能物質の創成と応用および先導的分析計測法の開発を指向する教育研究を実践する。

設計工学域

電子システム工学専攻

現代のキーテクノロジーであるエレクトロニクスや情報通信技術を修得するとともに、専門知識を活用し将来に向けた新しい技術開発を先導する能力、新しい技術を社会に適合させるための総合力を身につけた技術者、研究者を育成することを目的としている。

情報工学専攻

情報、通信、ネットワーク、システム制御などの最新技術をハードとソフトの両面から理論と実践をバランスよく修得し、専門分野での研究・開発技術者として活躍できる能力を身につけることを目標とした教育・研究を行っている。

機械物理学専攻

熱力学・流体力学・材料力学・機械力学のいわゆる4力学を基礎としており、主として力学的な視点から様々な物理現象の本質の解明を目指している。さらに、その過程で得られた知見を実際の「ものづくり」にフィードバックすることにより、旧来の限界を超える製品開発や解析手法の開発のようなブレークスルーを実現できる「探究的アプローチによる新たな価値創造」を可能とする機械技術者・研究者の育成を目指す。

機械設計学専攻

機械工学のみならず幅広い先端技術分野に精通し、それらの横断的利用により新たな価値創造に取り組める能力を有し、国際的に活躍できる機械技術者・研究者を養成するための教育・研究を行っている。

デザイン科学域

デザイン学専攻

新たな時代におけるデザインの役割・機能をソーシャルインタラクションデザインと定義し、モノの造形に留まらず、新たなサービスの創造と社会実装を行える人材の育成を目指している。このソーシャルインタラクションデザインの能力を涵養するために、デザイン系、テクノロジー系、マネジメント系、キュレーション系といった4系列の専門教育科目と研究分野を構成し、それらを有機的に統合するPBL系実習・演習科目を、産業界、自治体、海外研究機関との連携によって設置している。

建築学専攻

地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。建築学専攻ではこれを〈KYOTOデザイン〉と銘打って教育、研究、実務を行い、地域と歴史に根ざすとともに国際的な競争力のある建築家、建築技術者、都市プランナー、修復建築家等の高度な都市・建築専門家を育成している。

京都工芸繊維大学・チェンマイ大学
国際連携建築学専攻

タイのチェンマイ大学と連携し、建築学、特に建築設計学と都市・建築再生学を中心とした分野において、共同で教育プログラムを構築し、修了時には共同で単一の学位を授与するジョイントディグリープログラムとして設置している。

繊維学域

先端ファイブロ科学専攻

専攻名のファイブロは、「ファイバー状の」という意味の連結語で、科学と連結した「ファイブロ科学」はファイブロ材料およびその応用分野を研究対象としている。本専攻では、テキスタイルサイエンス・エンジニアリングを学ぶことにより、人と環境に優しいものづくりができ、かつ未知のものに向かって自らの考えでアプローチができる応用力を身につけた人材育成を目標としている。

バイオベースマテリアル学専攻

環境調和型バイオベースマテリアル（BBM）に関する新しい材料科学・工学を展開できるような人材の養成を目標としている。BBMの研究や開発には生物工学、有機化学、高分子化学、高分子材料学、高分子物性学などの分野に加え、広範な科学分野を総合理解できる人材が求められている。このような分野の教育・研究を通して、BBMの研究や開発に将来携わり、もって、持続可能な循環型社会の構築に資する人材の育成を目指す。

博士後期課程

応用生物学域

バイオテクノロジー専攻

昆虫、哺乳動物、植物および微生物における生命現象について、分子、細胞、生物個体から生態系に至るマルチレベルな生命科学教育に重点を置き、人類が直面している諸問題にバイオテクノロジーを駆使して果敢に取り組むことができる研究者・技術者を育成することを目指す。

物質・材料科学域

物質・材料化学専攻

バイオインスパイアード化学（生体機能への化学的アプローチ）、機能性分子・ポリマー・ナノマテリアルの精密な分子設計と合成（モレキュラーデザイン）、ソフトマテリアル、フォトエレクトロニクスなどの諸領域において教育研究を展開し、次代を担う革新的な物質・材料の開拓と創製において先導的な役割を果たす人材の育成を目指す。

設計工学域

電子システム工学専攻

電子システムを構築するための様々な要素技術、設計・解析理論、システム技術を中心とした教育研究を行っており、回路、システム、電磁波、光、信号処理、通信、デバイス、材料、プラズマの領域をカバーしている。エネルギー・環境問題の解決を目指すグリーンイノベーションをはじめ、これからの社会が求めている研究開発を、電子システム工学の専門的知識をもとに実践できる人材の育成を目指す。

設計工学専攻

ものづくりの設計・製作・評価過程の全般を見通しつつ、どの過程をもこなせ、さらに、製作しようとするものが、いつどこでどんな風に役立つかを設計過程において明示できる高度専門技術者、研究者を育成する。

デザイン科学域

デザイン学専攻

デザイン学領域では、プロダクト、グラフィック、インテリア等に関わる専門的デザイン能力をベースにしながら、社会、経済、技術環境の変化といった広範な枠組みにおけるニーズ発見と、その革新的ソリューションの創造を目指し、キュレーション領域では、美術、デザインなどについて作品分析と文献資料の読解を通して歴史的・理論的な価値づけを行いながら論文を作成する能力、企画、編集、展示、発信といったデザイン力を育成することを目指す。

建築学専攻

地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。本専攻ではこれを〈KYOTOデザイン〉と銘打って教育、研究、実務を行い、地域と歴史に根ざすとともに国際的な競争力のある高度な都市・建築専門家および高い専門性を持つ自立した研究者を育成している。

繊維学域

先端ファイブロ科学専攻

専攻名のファイブロは、「ファイバー状の」という意味の連結語で、科学と連結した「ファイブロ科学」はファイブロ材料およびその応用分野を研究対象としている。本専攻では、テキスタイルサイエンス・エンジニアリングを学ぶことにより、人と環境に優しいものづくりができ、かつ未知のものに向かって自らの考えでアプローチができる応用力を身につけた人材育成を目標としている。

バイオベースマテリアル学専攻

環境調和型バイオベースマテリアル（BBM）に関する新しい材料科学・工学を高度に発展させることができる研究者・技術者の養成を目標としている。生物工学、有機化学、高分子化学、高分子材料学、高分子物性学などの科学分野の知識を融合させて分野横断的にBBMを探求する能力を育てる専門教育を行い、それを深化させる研究活動を推進している。BBM学の教育・研究を通じて、持続可能な循環型社会の構築を牽引できるような卓越した人材の育成を目指す。

センター・拠点等説明

研究戦略推進委員会

大学全体の研究力および産学連携機能の強化を図るための組織再編の一環として、2018年10月の組織改組により新たに設置され、教員組織である「学系」を総括し、研究力の向上、各学系がもつ強み分野を発展させた分野横断型研究チームの発足を促進し、大型の外部資金獲得に向けた活動を推進する体制の整備を行う。

産学公連携推進センター

大学全体の研究力および産学連携機能の強化を図るための組織再編の一環として、2018年10月に設置され、これまで研究者個人と企業の関係になりがちだった共同研究の関係を、「組織対組織」の関係へと発展させ、研究プロジェクトの大型化、知的財産の保護・活用、リカレント教育の展開など、産学連携の拡充を図る。

連携企画室

専任のURAを配置し、企業ニーズと研究シーズのマッチングによる共同研究等の産学連携を推進する。さらに、組織対組織の産学連携に対応していくため、産学公連携に係る学内外の窓口として、教員組織である「学系」および重点研究組織である「デザイン主導未来工学センター」に対するサポートを行う。

知的財産戦略室

専任のURAを中心に、知的財産の戦略、保護・管理・活用に関する企画、立案、実施に加え、利益相反マネジメントのサポートを担う。本学で創出された研究成果や知的財産の社会への還元を通して、地域社会の発展に貢献することを目指す。

リカレント教育推進室

地域等のニーズに基づくリカレント教育の推進に関すること、リカレント教育プログラムに関すること、その他本学のリカレント教育の推進および支援に関することについて、企画、立案および実施を担う。企業との組織対組織の共同関係を活かして、実務家教員を配置した履修証明プログラム等を開設している。

デザイン主導未来工学センター

本学が高い優位性を持つ研究分野「デザイン・建築」、「グリーンイノベーション」、「高分子・繊維材料」、「昆虫」、「ものづくり・繊維研究」を重点化し、複数の重点研究「ラボ」を統括する、分野横断教育研究組織である。

KYOTO Design Lab

本学がデザインと建築を柱とする領域横断型の教育研究拠点として設立した、共同研究と実践のためのプラットフォームである。2014年の発足以来、「Innovation by Design」を掲げて、社会的課題の発見と解決を行っている。

グリーンイノベーションラボ

低炭素化・パワーエレクトロニクスをキーワードとして、電気電子にかかわる様々な研究を核として電波暗室、クリーンルームの運営に携わっている。電波暗室は電気電子機器のEMC(電磁環境適合性)の評価を行うことができ、外部への有償貸出を行っている。

新素材イノベーションラボ

従来の材料では達成できない物性間のトレードオフを解消できる革新的高分子・複合新素材の創出が求められている。本ラボでは原子・分子レベルで材料を理解することで、材料のもつ階層構造を巧みにデザインし、創出された“超階層ネットワーク”による次世代の新素材研究開発の拠点構築を推進している。

昆虫先端研究推進拠点

ショウジョウバエ遺伝資源研究部門、生物資源フィールド科学研究部門、昆虫バイオメディカル研究部門が保有する遺伝資源や研究材料をもとに国内外の研究機関等と「神経変性疾患の予知・予防および治療方法の探索」「昆虫先端科学を活用したヘルスサイエンス研究」に関する共同研究を行っている。

ショウジョウバエ遺伝資源研究部門

世界最大規模の約30,000種類のショウジョウバエ系統を保有し、国際的ストックセンターとして研究コミュニティに貢献している。なかでも海外機関と共同で開発するヒト化ショウジョウバエはヒトゲノム断片を組み込み、未診断疾患の病因解明など生物種の枠を超え生命科学の進展に寄与する。

生物資源フィールド科学研究部門

1992年の開設以来、資源昆虫学・資源植物学・バイオ資源学の3研究分野で構成され、本学農学士育成に必要不可欠な教育を担当している。資源生物生産や病害虫防除に関する学内外との共同研究も踏まえ、環境保全的循環型の生物資源利用を担える科学的能力とセンスを備えた人材の育成を目指した教育研究を進めている。

昆虫バイオメディカル研究部門

最先端の昆虫科学を活用して、1)ヒトの病気や老化の原因となる遺伝子を同定、解析し、治療薬の探索、ならびに病気や老化のメカニズム解明に寄与する研究、2)昆虫ウイルスを用いて増殖因子等をカプセル化したタンパク質を作製し、再生医療に貢献する研究、3)全国の大学、研究機関等との共同研究を推進している。

先端ものづくり・繊維研究推進拠点

拠点にものづくり教育研究センター、繊維科学センターならびに伝統みらい教育研究センターを置き、ものづくり、繊維科学分野および日本の伝統技術の応用展開における教育研究を総合的に推進している。

ものづくり教育研究センター

各種加工機械・設備を集中管理し、本学における教育および研究を先端加工・工作機能の面から支援するとともに、ものづくり教育プログラムの開発・実施、地域企業・公的機関とのネットワーク拡充、産学協同研究プロジェクトの実施など、先端的ものづくりにかかわる教育・研究の地域拠点を目指した活動を行っている。

繊維科学センター

本学が蓄積してきた繊維科学・技術を引き継ぎ発展させ、更に「繊維学域」「繊維学系」をはじめとする多様性に富む本学の研究分野を幅広く巻き込みながら、繊維科学の研究を推進するとともに、より新しい繊維科学・工学体系を創出し、常に新潮流を開拓する事により、繊維科学・工学分野の世界的中核を担う拠点とする。

伝統みらい教育研究センター

日本の伝統技術・技能に内在する知恵、「暗黙知」を突き止めて「形式知」化し、今考えられる技術と先人たちが残してきた知恵との複合化を行うことにより、新しいものづくりに応用するための教育・研究を推進している。

教育研究プロジェクトセンター

ゴム科学研究センター

（設置期間：2016.6–2021.3）

半世紀におよぶゴムの教育研究に実績のある本学において、21世紀のゴム科学と技術の発展に役立つ独創的知見の発信と、次世代のゴム工業の発展を担う若手研究者・技術者の育成を世界と共同して行っている。天然ゴムのサスティナビリティに関する研究を展開し、安全かつ安心な低炭素社会の構築に貢献する活動を行っている。

COC推進拠点

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を進めている。福知山キャンパスを拠点に、京都府の中で特に人口流出が進む北京都（府北部・中部地域）を中心として、府内の国公私立大学・高専、自治体、企業等と連携しながら、京都府全体の地域創生を担う人材育成に取り組んでいる。

附属図書館

約40万冊の図書、約5,400種の雑誌を所蔵して利用に供するとともに、開放型学習エリア「グローバルコモンズ」を設置し、「知への探検」と「知と遊ぶ」ための基点として、大学の教育と研究を支えている。また貴重な所蔵資料を紹介する企画展示を随時開催し、魅力ある情報を学内外に発信している。

美術工芸資料館

京都工芸繊維大学の前身校が開校した20世紀初頭以降に購入し、実際に使用した教育資料を収蔵品の核としている。そのなかには、ロートレックやクリムトのポスター、アール・ヌーヴォー期の陶器、ティファニーのガラス器など貴重な美術作品も含まれており、テーマを決めてそれらを展示公開している。

情報科学センター

情報基盤計算機システムと基幹情報ネットワークを中心とした、学内の情報通信技術の基盤を担う施設である。各種基盤システムの開発・管理・運用および保守はもちろんのこと、教育支援、情報通信技術の提供による研究支援なども行っている。また、担当教員が最先端の研究を遂行し、研究指導を行っている。

環境科学センター

大学周辺地域のみならず地球規模の環境問題にも対応すべく幅広く環境教育・研究を推進している。また、学内の構内排水、廃棄物の適正管理を実施すると共に環境安全マネジメントシステムを構築・運用し、環境負荷の低減と「環境安全マインド」を持った人材の育成に寄与している。

機器分析センター

各種測定・分析機器等を集中管理し、共同利用に供するとともに、教育研究の進展に資することを目的に2001年に設置した。
教育研究を測定手段や設備面で支援し、分野の枠を超えた先導的研究、学際・融合的研究等を推進していくうえで、特色ある研究の基盤形成に積極的な役割を果たしていくことを目指している。

アイソトープセンター

非密封放射性同位元素をトレーサーとして利用し、生物・理工学の幅広い分野の教育研究支援のために1987年に学内共同利用施設として放射性同位元素実験室を設置し、2011年にアイソトープセンターに改称した。^{3}H、^{14}C、^{32}P、^{33}P、^{35}S、^{45}Ca、^{59}Fe、^{125}Iの8核種が使用可能である。

総合教育センター

本学の教育全般を司る組織であり、教育課程の編成や新規教育プログラムの開発、各種FD事業、社会人教育等について、包括的に調査・分析し、企画、立案、実施している。教員FD研修会では、アクティブラーニング等を取り入れた授業実践例の紹介などを行っており、毎年多数の教員が参加している。

学生支援センター

授業料免除や奨学金等の経済支援、課外活動やアルバイト等学生生活の支援、インターンシップや就職相談等の就職・キャリア支援、障害学生支援等、各種事業の企画・運営を通じ学生が主体的に学習できる環境の整備するとともに、教育の質を多様な手段で検証することで、学生生活の改善・向上を目的とする組織である。

アドミッションセンター

2001年4月における設置以来、本学の入学者選抜の企画と円滑な実施を図るとともに、入学者確保のための調査、分析等を行っている。また、受験生や保護者、高等学校等からの入試に関する相談への対応、入試に関する広報活動、ダビンチ（AO）入試合格者に対する高大接続教育を行っている。

国際センター

本学の国際化推進および国際交流に関すること、またそのために必要な活動を行うことを目的として設置された。「国際的高度専門技術者（TECH LEADER）」養成を目指し、国際交流協定校の拡大、学生交流の活性化、海外インターンシップの推進等、教育研究環境をグローバル化する取組を展開している。

保健管理センター

医師および看護師が常駐しており、学生と教職員の心身の健康維持・増進を図るため、健康相談、診察および不慮の疾病やケガに対する応急処置などの業務を行っている。必要に応じ市中の医療機関への紹介も行う。また、法律の定める定期健康診断やX線・RI・組換えDNA等取扱者の特殊健康診断を行っている。

アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター

発達障害を専門とする教員、精神科医、カウンセラーが配置されており、対人関係や学業、性格の悩み、不安、抑うつ、緊張、パニック、発達障害などの「こころの問題」を抱える学生や教職員の相談窓口としての機能のほか、これらの障害等を持つ学生や教職員と大学との間に立ち、両者の連絡調整機能としての役割も有している。

高度技術支援センター

生物・総括技術、分析・測定、システム・ネットワーク、ものづくり・デザインの4グループ8系で構成され、センター・課程・専攻等への技術支援やプロジェクト参画による研究・技術支援を行っている。
これらの支援業務に加えて、技術の継承、レベルアップおよびセンター独自の技術開発も行っている。

歴代学長／役職員等

歴代学長

中澤　良夫　（1949年5月～1962年5月）
大倉　三郎　（1962年6月～1966年5月）
藤本　武助　（1966年6月～1972年5月）
増尾　富士雄　（1972年6月～1978年5月）
吉田　徳之助　（1978年6月～1982年5月）
福井　謙一　（1982年6月～1988年5月）
巽　友正　（1988年6月～1994年5月）
丸山　和博　（1994年6月～1998年5月）
木村　光佑　（1998年6月～2004年3月）
江島　義道　（2004年4月～2012年3月）
古山　正雄　（2012年4月～2018年3月）
森迫　清貴　（2018年4月～）

役員等

学長	森迫　清貴
理事（副学長）	小野　芳朗（大学戦略・総務担当）
理事（副学長）	吉本　昌広（研究・産学地域連携担当）
理事（副学長）	堤　直人（施設・環境・情報担当）
理事（非常勤）	乾　賢一
副学長（事務局長）	大内　あづさ（人事労務・財務担当）
副学長	PEZZOTTI Giuseppe（国際担当）
副学長	前田　耕治（教育・学生担当）
監事（非常勤）	吉田　多見男
監事（非常勤）	安保　千秋

顧問等

学長補佐　高畑　哲（入試広報・高大連携担当）
顧問　千　玄室（茶道裏千家前家元）
顧問　清水　潔（元文部科学省事務次官）

経営協議会委員

学長	森迫　清貴
理事	小野　芳朗
理事	吉本　昌広
理事	堤　直人
理事	乾　賢一
副学長	大内　あづさ
副学長	PEZZOTTI Giuseppe
副学長	前田　耕治
学外委員	位高　光司（元日新電機㈱会長）
学外委員	奥村　次德（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター理事長）
学外委員	門川　大作（京都市長）
学外委員	京藤　倫久（㈱明電舎 研究開発本部 技術顧問）
学外委員	材木　正己（日東精工㈱代表取締役社長）
学外委員	鈴木　順也（NISSHA㈱代表取締役社長兼最高経営責任者）
学外委員	中井　敏宏（京都府公立大学法人理事・事務総長）
学外委員	西本　清一（公益財団法人京都高度技術研究所理事長）
学外委員	堀場　厚（㈱堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO）

教育研究評議会評議員

学長	森迫　清貴
理事（副学長）	小野　芳朗
理事（副学長）	吉本　昌広
理事（副学長）	堤　直人
理事	乾　賢一
副学長	大内　あづさ
副学長	PEZZOTTI Giuseppe
副学長	前田　耕治
工芸科学研究科副研究科長	森脇　一郎
工芸科学研究科副研究科長	秋富　克哉
デザイン主導未来工学センター副センター長	中　建介
デザイン主導未来工学センター副センター長	門　勇一
応用生物学系長	伊藤　雅信
材料化学系長	角野　広平
分子化学系長	堀内　淳一
機械工学系長	西田　秀利
情報工学・人間科学系長	寶珍　輝尚
繊維学系長	小原　仁実
デザイン・建築学系長	岡田　栄造
基盤科学系長	深田　智
応用生物学域長	宮田　清司
物質・材料科学域長	高廣　克己
設計工学域長	小林　和淑
デザイン科学域長	清水　重敦
繊維学域長	鋤柄　佐千子
基盤教育学域長	武田　実
工芸科学部副学部長（地域創生 Tech Program 担当）	桑原　教彰

学長選考会議委員

経営協議会委員	位高　光司
経営協議会委員	奥村　次德
経営協議会委員	京藤　倫久
経営協議会委員	材木　正己
経営協議会委員	中井　敏宏
教育研究評議会評議員	前田　耕治
教育研究評議会評議員	中　建介
教育研究評議会評議員	寶珍　輝尚
教育研究評議会評議員	小林　和淑
教育研究評議会評議員	清水　重敦

部局長・施設長等

工芸科学部長	前田　耕治
大学院工芸科学研究科長	前田　耕治
応用生物学域長	宮田　清司
物質・材料科学域長	高廣　克己
設計工学域長	小林　和淑
デザイン科学域長	清水　重敦
繊維学域長	鋤柄　佐千子
基盤教育学域長	武田　実
応用生物学系長	伊藤　雅信
材料化学系長	角野　広平
分子化学系長	堀内　淳一
電気電子工学系長	門　勇一
機械工学系長	西田　秀利
情報工学・人間科学系長	寶珍　輝尚
繊維学系長	小原　仁実
デザイン・建築学系長	岡田　栄造
基盤科学系長	深田　智
デザイン主導未来工学センター長	小野　芳朗
KYOTO Design Lab ラボラトリー長	岡田　栄造
昆虫先端研究推進拠点長	森　肇
−ショウジョウバエ遺伝資源研究部門長	高野　敏行
−生物資源フィールド科学研究部門長	秋野　順治
−昆虫バイオメディカル研究部門長	井上　喜博
先端ものづくり・繊維研究推進拠点長	小野　芳朗
−ものづくり教育研究センター長	増田　新
−繊維科学センター長	佐久間　淳
−伝統みらい教育研究センター長	小野　芳朗
グリーンイノベーションラボ長	小林　和淑
新素材イノベーションラボ長	中　建介
産学公連携推進センター長	吉本　昌広
−連携企画室長	行場　吉成
−知財戦略室長	坂井　貴行
−リカレント教育推進室長	吉本　昌広
COC推進拠点長	吉本　昌広
附属図書館長	並木　誠士
美術工芸資料館長	並木　誠士
情報科学センター長	桝田　秀夫
環境科学センター長	堤　直人
機器分析センター長	堤　直人
アイソトープセンター長	鈴木　秀之
総合教育センター長	前田　耕治
学生支援センター長	森脇　一郎
アドミッションセンター長	秋富　克哉
国際センター長	PEZZOTTI Giuseppe
保健管理センター長	荒井　宏司
アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター長	藤川　洋子
高度技術支援センター長	吉本　昌広
KIT男女共同参画推進センター長	大柴　小枝子

事務局

事務局長（副学長）	大内　あづさ
総務企画課長	砂田　真也
人事労務課長	山﨑　真司
財務課長	佐藤　淳
経理課長	伊藤　滋延
情報管理課長	田中　和代
施設環境安全課長	中村　守
研究推進課長	芝田　幸宏
産学・地域連携課長	鎌田　直樹
国際課長	橋本　和也
学務課長	茨田　正洋
学生サービス課長	岩田　容子
入試課長	田中　辰次

役員等数

2019年5月1日現在

学長	理事（副学長）	理事（非常勤）	事務局長（副学長）	副学長	監事（非常勤）	計
1	3	1	1	2	2	10

事務職員数

2019年5月1日現在

区分	局長・管理職※	副課長・専門員	係長・専門職	主任	係員	計
事務局	13	11	41	15	43	123

※ 管理職とは、課長をいう。

技術職員数

2019年5月1日現在

区分	技術専門員	技術専門職員	技術員	計
高度技術支援センター	3	11	9	23

看護師数

2019年5月1日現在

区分	看護師	計
保健管理センター	1	1

教員数

2019年5月1日現在

区分	教授	准教授	講師	助教	助手	計
応用生物学系	13	8	0	7	0	28
材料化学系	12	14	0	9	0	35
分子化学系	10	9	0	7	0	26
電気電子工学系	13	5	1	8	0	27
機械工学系	12	9	0	9	0	30
情報工学・人間科学系	10	10	1	8	0	29
繊維学系	11	8	0	5	0	24
デザイン・建築学系	16	16	2	10	1	45
基盤科学系	21	11	0	4	1	37
合計	118	90	4	67	2	281

学生数

2014年4月、生体分子工学課程を生体分子応用化学課程に、造形工学課程をデザイン・建築学課程に改組するとともに、博士前期課程造形工学専攻、デザイン科学専攻および建築設計学専攻の3専攻をデザイン学専攻と建築学専攻の2専攻に、博士後期課程造形科学専攻を、デザイン学専攻と建築学専攻に改組した。
また、2015年4月には、機械システム工学課程を機械工学課程に、博士前期課程の生体分子工学専攻、高分子機能工学専攻および物質工学専攻の3専攻を材料創製化学専攻、材料制御化学専攻、物質合成化学専攻および機能物質化学専攻の4専攻に、機械システム工学専攻を機械物理学専攻と機械設計学専攻に、博士後期課程の生命物質科学専攻をバイオテクノロジー専攻と物質・材料化学専攻に、設計工学専攻を電子システム工学専攻と設計工学専攻に改組した。
これらの改組により、学部段階からの連続性・一貫性を踏まえた大学院教育を展開していく体制となった。
2017年4月には、京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を新たに設置し、さらに、2018年4月には、応用化学分野およびデザイン分野の再編統合を行い、現在、学部6課程、博士前期課程14専攻、博士後期課程8専攻を設置している。

工芸科学部

2019年5月1日現在

学域・課程	入学定員	3年次編入学定員	1年次		2年次		3年次		4年次		計		合計
			男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
生命物質科学域													
応用生物学課程※2							31	25	35	30	66	55	121
生体分子工学課程※1									6		6		6
生体分子応用化学課程※1							30	24	53	14	83	38	121
高分子機能工学課程※1							50	5	51	12	101	17	118
物質工学課程※1							50	23	64	16	114	39	153
応用生物学域													
応用生物学課程※2	50		24	27	27	29					51	56	107
物質・材料科学域													
応用化学課程	169		130	42	130	53					260	95	355
設計工学域													
電子システム工学課程	61		64	4	59	5	58	6	81	9	262	24	286
情報工学課程	61		53	10	54	9	61	8	73	12	241	39	280
機械システム工学課程※1									13	1	13	1	14
機械工学課程	86		80	9	88	6	88	12	89	17	345	44	389
デザイン経営工学課程※1							24	20	30	22	54	42	96
造形科学域													
造形工学課程※1									4	2	4	2	6
デザイン・建築学課程※1							77	57	89	63	166	120	286
デザイン科学域													
デザイン・建築学課程	156		82	78	78	85					160	163	323
学域共通		50											
（学部共通）													
先端科学技術課程（夜間主）※1									5		5		5
合計	583	50	433	170	436	187	469	180	593	198	1,931	735	2,666
うち地域創生 Tech Program			12	3	14	5	10	8	18	10	54	26	80

※1 生体分子工学課程、生体分子応用化学課程、高分子機能工学課程、物質工学課程、機械システム工学課程、デザイン経営工学課程、造形工学課程、造形科学域のデザイン・建築学課程、先端科学技術課程（夜間主）は改組により募集を停止した。
※2 2018年に学域を改組。

博士前期課程

2019年5月1日現在

学域・専攻	入学定員	1年次		2年次		計		合計
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	
生命物質科学域								
応用生物学専攻※2				2		2		2
材料創製化学専攻※2					1		1	1
材料制御化学専攻※2								
物質合成化学専攻※2								
機能物質化学専攻※2					1		1	1
応用生物学域								
応用生物学専攻※2	40	16	10	15	18	31	28	59
物質・材料科学域								
材料創製化学専攻※2	33	33	7	26	6	59	13	72
材料制御化学専攻※2	32	22	11	30	4	52	15	67
物質合成化学専攻※2	33	20	8	25	7	45	15	60
機能物質化学専攻※2	32	25	12	14	8	39	20	59
設計工学域								
電子システム工学専攻	50	49	6	56	1	105	7	112
情報工学専攻	46	45	4	49	8	94	12	106
機械物理学専攻	37	33	3	34	2	67	5	72
機械設計学専攻	30	32	2	31	1	63	3	66
デザイン経営工学専攻※1				2		2		2
造形科学域								
デザイン学専攻※1					3		3	3
建築学専攻※2				18	5	18	5	23
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻※2					2		2	2
デザイン科学域								
デザイン学専攻	45	19	30	25	25	44	55	99
建築学専攻※2	71	45	32	43	37	88	69	157
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻※2	4	2	2		2	2	4	6
繊維学域								
先端ファイブロ科学専攻	35	28	5	27	12	55	17	72
バイオベースマテリアル学専攻	22	11	2	14	5	25	7	32
合計	510	380	134	411	148	791	282	1,073

※1 デザイン経営工学専攻および造形科学域のデザイン学専攻は、改組により募集を停止した。　※2 2018年に学域を改組。

博士後期課程

2019年5月1日現在

学域・専攻	入学定員	1年次		2年次		3年次		計		合計
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
生命物質科学域										
生命物質科学専攻※1							2		2	2
バイオテクノロジー専攻※2						4	2	4	2	6
物質・材料化学専攻※2						8	3	8	3	11
応用生物学域										
バイオテクノロジー専攻※2	6	8	5	6	4			14	9	23
物質・材料科学域										
物質・材料化学専攻※2	13	9	1	11	3			20	4	24
設計工学域										
電子システム工学専攻	5	2		1	1	3		6	1	7
設計工学専攻	10	4	4	5		14	3	23	7	30
造形科学域										
造形科学専攻※1						1	2	1	2	3
デザイン学専攻※2						4	7	4	7	11
建築学専攻※2						6	6	6	6	12
デザイン科学域										
デザイン学専攻※2	5	1	4	1	2			2	6	8
建築学専攻※2	7	6	2	1	4			7	6	13
繊維学域										
先端ファイブロ科学専攻	8	2	7	5	4	18	6	25	17	42
バイオベースマテリアル学専攻	6	2		2	2	6	1	10	3	13
合計	60	34	23	32	20	64	32	130	75	205

※1 生命物質科学専攻および造形科学専攻は、改組により募集を停止した。　※2 2018年に学域を改組。

入学者選抜実施状況

2019年度実施状況

新1年次生

2019年4月1日現在

選抜区分		募集人員	出願者数	倍率	受験者数	倍率	合格者数	うち追加合格者数	入学者数
一般入試	前期日程	344	1,303	3.8	1,271	3.7	374	2	371
	後期日程	159	1,345	8.5	694	4.4	234	12	161
	一般入試　合計	503	2,648	5.3	1,965	3.9	608	14	532
ダビンチ（AO）入試	一般プログラム　一般	40	338	8.5	335	8.4	41		41
	一般プログラム　グローバル	10	24	2.4	24	2.4	5		5
	一般プログラム　合計	50	362	7.2	359	7.2	46		46
	地域創生 Tech Program　一般	14	33	2.4	33	2.4	9		9
	地域創生 Tech Program　地域	16	15	0.9	15	0.9	6		6
	地域創生 Tech Program　社会人	若干名	1		1		0		
	地域創生 Tech Program　合計	30	49	1.6	49	1.6	15		15
	ダビンチ（AO）入試　合計	80	411	5.1	408	5.1	61		61
私費外国人留学生入試		若干名	115		107		19		3
総計		583	3,174	5.4	2,480	4.3	688	14	596
国費外国人留学生									0
政府派遣留学生									7

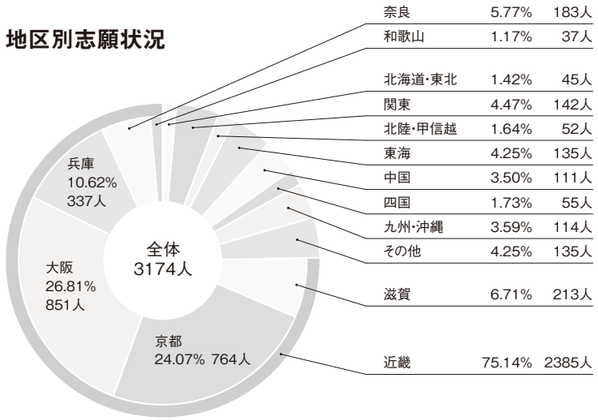
新3年次生

2019年4月1日現在

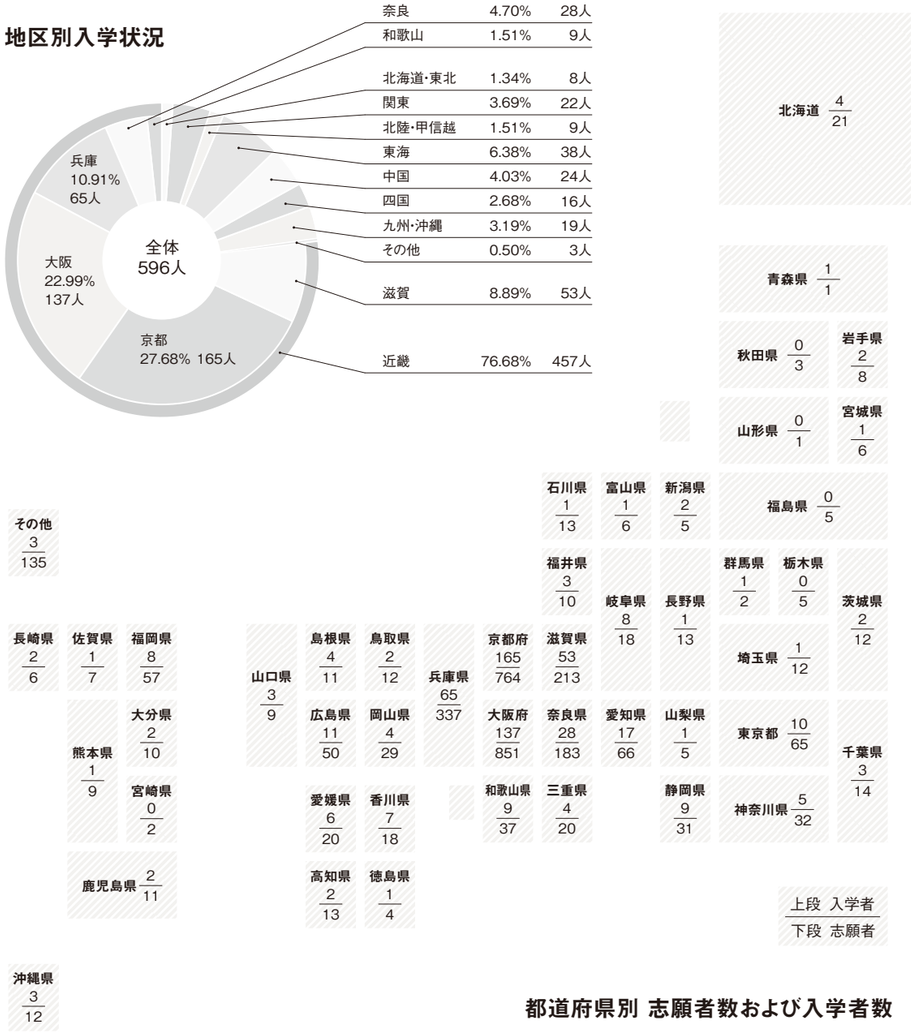
選抜区分			募集人員	出願者数	倍率	受験者数	倍率	合格者数	うち追加合格者数	入学者数
3年次編入試験	推薦選抜	一般プログラム	若干名	24		24		16		16
		地域創生 Tech Program	若干名	0						
		推薦選抜　合計		24		24		16		16
	一般選抜	一般プログラム	45	171	3.8	139	3.1	51	7	32
		地域創生 Tech Program	5	2	0.4	2	0.4	1	0	1
		一般選抜　合計	50	173	3.5	141	2.8	52	7	33
	3年次編入学試験　合計		50	197	3.9	165	3.3	68		49
	モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試		若干名	9		9		9		8

2019年度地区別志願・入学状況

地区別志願状況



地区別入学状況



都道府県別 志願者数および入学者数

※ 国費留学生、政府派遣留学生は含みません。

奨学生数

学部

2019年3月1日現在

区分		工芸科学部 昼間	工芸科学部 夜間主	計
日本学生支援機構	1種	324	2	326
	2種	338	5	343
	計	662	7	669
その他の奨学生		35		35
地域創生 Tech Program 社会人学生奨学金（本学独自の奨学金）		2		2
合計		699	7	706

大学院工芸科学研究科

2019年3月1日現在

区分		博士前期課程	博士後期課程	計
日本学生支援機構	1種	342	22	364
	2種	28		28
	計	370	22	392
その他の奨学生		8	2	10
京都工芸繊維大学基金奨学生（本学独自の奨学金）			3	3
合計		378	27	405

卒業生数

基礎学力と実践的応用力を身につけた本学の卒業生は、社会の各分野で高く評価され、様々な産業分野の第一線で活躍している。
また、卒業生の半数以上は大学院に進学している。

工芸科学部

課程	コース	2018年度 男子	2018年度 女子	2018年度 計	累計 男子	累計 女子	累計 合計
応用生物学課程		27	21	48	267	253	520
生体分子工学課程		1		1	301	116	417
生体分子応用化学課程		35	15	50	65	25	90
高分子機能工学課程		41	7	48	440	89	529
物質工学課程		54	20	74	538	186	724
電子システム工学課程		64	6	70	613	37	650
情報工学課程		55	5	60	539	75	614
機械システム工学課程		10	1	11	746	40	786
機械工学課程		69	7	76	69	7	76
デザイン経営工学課程		19	22	41	236	185	421
デザイン・建築学課程		56	57	113	100	117	217
造形工学課程		1	2	3	562	497	1,059
先端科学技術課程	夜間主	28	6	34	317	71	388
合計		460	169	629	4,793	1,698	6,491

※ 2006年の改組再編前の学部の卒業生数
【工芸学部】卒業生総数 19,641人
1988年の改組前の学科の卒業生は、機械工学科 1,000人、生産機械工学科 1,095人、電気工学科 1,009人、電子工学科 669人、
色染工芸学科 1,340人、無機材料工学科 568人、工業化学科 911人、建築学科 483人、住環境学科 599人、意匠工芸学科 957人、
建築工芸学科 823人、機織工芸学科 598人、窯業工芸学科 583人、計 10,635人。
2006年の改組前の学科の卒業生は、機械システム工学科 1,945人、電子情報工学科 2,528人、物質工学科 2,196人、造形工学科 2,337人、計 9,006人。
【繊維学部】卒業生総数 8,479人
1988年の改組前の学科の卒業生は、応用生物学科 185人、蚕糸生物学科 367人、高分子学科 689人、
繊維工学科 724人、繊維化学科 1,316人、養蚕学科 754人、製糸紡績学科 700人、計 4,735人。
2006年の改組前の学科の卒業生は、応用生物学科 1,283人、高分子学科 2,127人、デザイン経営工学科 334人、計 3,744人。

修士および博士の学位授与数

大学院工芸科学研究科

博士前期課程	2018年度 男子	2018年度 女子	2018年度 計	累計 男子	累計 女子	累計 合計
応用生物学専攻	17	18	35	538	346	884
材料創製化学専攻	27	9	36	84	21	105
材料制御化学専攻	23	6	29	69	13	82
物質合成化学専攻	27	5	32	76	15	91
機能物質化学専攻	26	9	35	68	33	101
電子システム工学専攻	50	3	53	498	26	524
情報工学専攻	41	5	46	440	61	501
機械物理学専攻	33	1	34	101	4	105
機械設計学専攻	30	4	34	85	4	89
デザイン経営工学専攻	12	9	21	191	82	273
デザイン学専攻	13	17	30	45	55	100
建築学専攻	46	29	75	156	124	280
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	1	1	2	1	1	2
先端ファイブロ科学専攻	34	8	42	590	137	727
バイオベースマテリアル学専攻	8	3	11	108	38	146
電子情報工学専攻※1				887	51	938
高分子学専攻※1				771	92	863
造形工学専攻※2				705	354	1,059
デザイン科学専攻※2				95	61	156
建築設計学専攻※2				187	77	264
生体分子工学専攻※3				191	74	265
高分子機能工学専攻※3				292	46	338
物質工学専攻※3				1,233	181	1,414
機械システム工学専攻※3				1,142	43	1,185
合計	388	127	515	8,553	1,939	10,492

※1 2006年の改組再編に伴い、電子情報工学専攻および高分子学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。
※2 2014年の改組再編に伴い、造形工学専攻、デザイン科学専攻および建築設計学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。
※3 2015年の改組再編に伴い、生体分子工学専攻、高分子機能工学専攻、物質工学専攻および機械システム工学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

博士後期課程	2018年度 男子	2018年度 女子	2018年度 計	累計 男子	累計 女子	累計 合計
生命物質科学専攻	1	2	3	77	39	116
設計工学専攻	6		6	52	8	60
造形科学専攻	1	2	3	25	19	44
先端ファイブロ科学専攻	8	2	10	145	54	199
バイオベースマテリアル学専攻	4	1	5	13	5	18
バイオテクノロジー専攻	2	3	5	6	6	12
物質・材料化学専攻	3	1	4	5	1	6
電子システム工学専攻	2		2	4		4
建築学専攻	3	2	5	6	5	11
デザイン学専攻		1	1		1	1
機能科学専攻※				167	65	232
材料科学専攻※				86	15	101
情報・生産科学専攻※				119	7	126
合計	30	14	44	705	225	930
論文提出				182	25	207

※ 2006年の改組再編に伴い、機能科学専攻、材料科学専攻および情報・生産科学専攻は募集を停止の上、学年進行により廃止した。

※ 1998年の改組再編前の大学院の修了生数
【工芸学研究科】修了生総数 1,617人
1988年の改組前の学科の修了生は、機織工芸学専攻 37人、色染工芸学専攻 204人、窯業工芸学専攻 55人、生産機械工学専攻 226人、
建築工芸学専攻 82人、意匠工芸学専攻 109人、電気工学専攻 150人、工業化学専攻 212人、機械工学専攻 150人、無機材料工学専攻 130人、
電子工学専攻 98人、住環境学専攻 63人、建築学専攻 101人。
【繊維学研究科】修了生総数 641人
1988年の改組前の学科の修了生は、養蚕学専攻 58人、蚕糸生物学専攻 84人、製糸紡績学専攻 42人、繊維工学専攻 127人、繊維化学専攻 245人、
高分子学専攻 85人。

進路状況

工芸科学部

2018年度 卒業・修了生

課程/業種等	コース	進学	就職									その他	計
			建設	製造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員	教育	医療・福祉	その他の業種		
応用生物学課程		35		3	1	2			1		1	5	48
生体分子工学課程 生体分子応用化学課程 高分子機能工学課程 物質工学課程		158		3	3			1			6	2	173
電子システム工学課程 情報工学課程 機械システム工学課程 機械工学課程		181		17	5	1		1	1	2	5	4	217
デザイン経営工学課程 造形工学課程 デザイン・建築学課程		104	9	13	2		6	2			13	8	157
先端科学技術課程	夜間主	9	1	6	3	2	1	1			7	4	34
合計		487	10	42	14	5	7	5	2	2	32	23	629

大学院工芸科学研究科

博士前期課程

2018年度 卒業・修了生

専攻/業種等	進学	就職									その他	計
		建設	製造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員	教育	医療・福祉	その他の業種		
応用生物学専攻	3		10	2	1	2	2	2	1	10	2	35
材料創製化学専攻			31	1		1				2	1	36
材料制御化学専攻	4		21			1				1	2	29
物質合成化学専攻	1		20			1	1			9		32
機能物質化学専攻	3	1	22	1					1	7		35
電子システム工学専攻		1	40	3						9		53
情報工学専攻	2		21	15		4				4		46
機械物理学専攻	1		31	1						1		34
機械設計学専攻			25	1			1		1	5	1	34
デザイン経営工学専攻	1	2	8	3		2	2			2	1	21
デザイン学専攻	1	2	8	3		6				5	5	30
建築学専攻 京都工芸繊維大学・チェンマイ大学 国際連携建築学専攻	4	36				1	1			26	9	77
先端ファイブロ科学専攻	1	1	24	2	1	1				9	3	42
バイオベースマテリアル学専攻	1		8							2		11
合計	22	43	269	32	2	19	7	2	3	92	24	515

博士後期課程

2018年度 卒業・修了生

専攻/業種等	進学	就職									その他	計
		建設	製造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員	教育	医療・福祉	その他の業種		
生命物質科学専攻 バイオテクノロジー専攻 物質・材料化学専攻 電子システム工学専攻 設計工学専攻 造形科学専攻 デザイン学専攻 建築学専攻 先端ファイブロ科学専攻 バイオベースマテリアル学専攻			9	1			1	13	2	5	5	36

※「その他」は進学希望者、就職希望者、研究生、進路未定等。
※ 個人が特定される恐れがあるため、一部の課程・専攻をまとめて掲載。

国際交流

これまで本学においては、「国際的工科系大学」を目指して、国際センターを中心に、在学生の留学促進や外国人留学生の受入、大学等間国際交流協定の締結推進などのほか、国際科学技術コースの設置や海外インターンシップの推進など、グローバル化を見据えた取り組みを展開してきた。これらの実績を評価され、2014年9月、文部科学省が実施する「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択された。「OPEN-TECH INNOVATION　～世界に、社会に、地域に開かれた工科大学構想～」をテーマに展開しているこの事業では、社会や産業のグローバル化を牽引する人材「TECH　LEADER」の養成を目標に、これまでの国際化の取組を基盤として、理工系人材に求められる国際的リーダーシップを涵養するカリキュラム改革をはじめ、海外大学との教育連携のための教員派遣、日本人学生の海外プログラム参加率および留学生比率の飛躍的向上、事務組織の国際化を進めている。

2018年度スーパーグローバル大学創成支援事業の主な取り組み

- 教職員派遣事業の実施
- 教職員に対する英語研修の実施
- 職員に対するTOEIC試験実施
- グローバルコモンズにおける多言語／多文化交流事業
- 外国人研究者等による講演会（OPEN TECHシンポジウム）の実施
- グローバルインターンシップに対する支援
- e-learningシステムや多読プログラムを利用した英語鍛え上げプログラムの実施
- 学部1・2年次生に対するTOEIC試験実施
- 英語スピーキングテストの実施
- 国際化モデル研究室の活動による留学生の受入および海外研究者招聘
- 国際連携建築学専攻（ジョイントディグリー）の実施

外国人研究者受け入れ状況

区分	2016年度	2017年度	2018年度
外国人研究員	0	0	0
特任研究員・非常勤研究員	7	7	7
研究戦略推進委員会研究員	3	2	2
国際訪問研究員	18	17	23
国際協力機構外国人受託研修員	6	9	8
合計	34	35	40

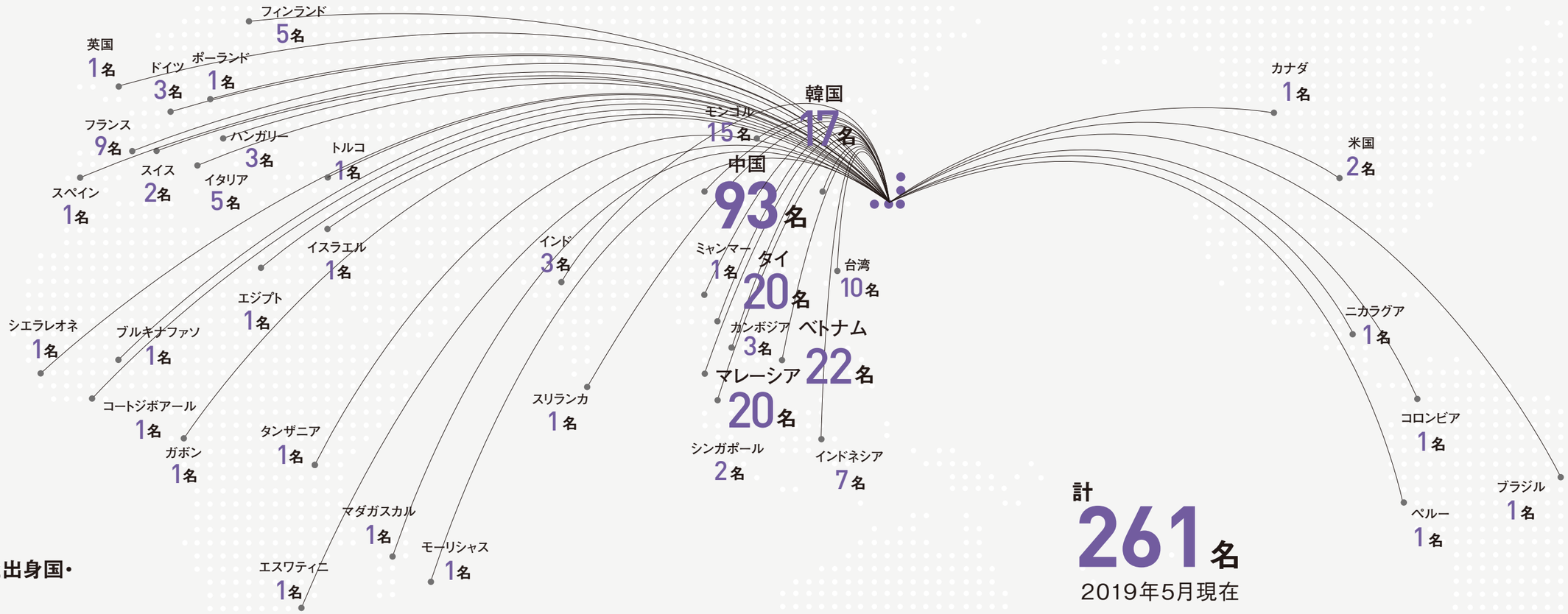
外国人留学生数

2019年5月1日現在

国・地域	学部			大学院			非正規生 研究生・国際交流学生等		合計
	国費	政派	私費	国費	政派	私費	国費	私費	
イスラエル				1					1
イタリア				2				3	5
インド				1				2	3
インドネシア	4		1			1		1	7
英国								1	1
エジプト				1					1
エスワティニ						1			1
カナダ				1					1
韓国			5			7		5	17
カンボジア	2					1			3
ガボン			1						1
コートジボアール				1					1
シエラレオネ						1		2	1
シンガポール								2	2
スイス								1	2
スペイン									1
スリランカ			1					6	1
タイ				8		6		6	20
台湾			2			2			10
タンザニア						1			1

国・地域	学部			大学院			非正規生 研究生・国際交流学生等		合計
	国費	政派	私費	国費	政派	私費	国費	私費	
中国			30	2		41		20	93
トルコ								1	1
ドイツ								3	3
ニカラグア				1					1
ハンガリー								3	3
フィンランド								5	5
フランス				1				8	9
ブラジル						1			1
ブルキナファソ				1					1
米国						2			2
ベトナム				17		4		1	22
ペルー						1			1
ポーランド								1	1
マダガスカル						1			1
マレーシア		18	1	1					20
ミャンマー								1	1
モンゴル	1		12			1		1	15
モーリシャス				1					1
合計	7	18	53	39		71		73	261

在学段階別…　学部：78　大学院：110　非正規生：73　　経費別…　国費：46　外国政府派遣：18　私費：197



留学生数と出身国・出身地域

国際交流協定締結機関

本学は、現在外国の105の大学・機関等と学術交流等の協定を締結し、教育研究に関する情報交換、教職員・学生の交流を行っている。
また、教育研究の交流を促進するため、海外の研究機関等への研究者および学生の派遣、並びに海外の研究機関等からの研究者、外国人教員、学生の受け入れを活発に行っている。

2019年5月1日現在

地域	国名	協定締結機関	発効年
アジア	インド	インド工科大学グワハティ校	2015年
		ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン	2015年
	カザフスタン	アルーファラビ・カザフ国立大学	2018年
		カザフ・ブリティッシュ工科大学	2019年
	韓国	釜山大学	2002年
		嶺南大学	2004年
		水原大学	2006年
		漢陽大学	2010年
		慶南科学技術大学	2013年
	カンボジア	王立プノンペン大学	2019年
	シンガポール	シンガポール国立大学 工学部	2004年
		シンガポール国立大学 環境デザイン学部	2013年
		シンガポール工科デザイン大学	2016年
	タイ	マハサラカム大学	2001年
		キングモンクート工科大学トンブリ校	2003年
		カセサート大学	2003年
		チェンマイ大学	2005年
		ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2006年
		チュラロンコン大学	2008年
		マヒドン大学	2008年
		コンケーン大学	2011年
	台湾	大同大学	2008年
		国立台湾大学 芸術史研究所	2015年
		国立交通大学	2018年
		国立台湾科技大学	2018年
	中国	東華大学	1987年
		浙江理工大学	2003年
		香港理工大学紡織衣服学院	2007年
	ベトナム	カント大学	2002年

地域	国名	協定締結機関	発効年
アジア	ベトナム	ハノイ工科大学	2002年
		ベトナム国立大学ホーチミン理科大学	2002年
		ベトナム科学技術アカデミー 化学研究所	2004年
		ハノイ医科大学	2006年
		ベトナム国立大学ホーチミン工科大学	2007年
		ベトナム教育訓練省	2011年
		国立医用材料研究所	2019年
	マレーシア	クアラルンプール大学	2014年
		マレーシア科学大学	2015年
		マラヤ大学	2017年
	モンゴル	モンゴル科学技術大学	2013年
アフリカ	エジプト	ヘルワン大学	2008年
		ダミエッタ大学 応用芸術学部	2015年
欧州	イタリア	トリエステ大学	2002年
		材料科学・工学イタリア大学コンソーシアム	2010年
		ベニス大学カ・フォスカリ校	2012年
		RFXコンソーシアム	2016年
		モデナ・レッジョ・エミリア大学	2017年
		トリノ工科大学	2017年
		パヴィア大学	2018年
		ヴェネツィア建築大学	2018年
		ヴェローナ大学	2018年
		パドヴァ大学	2018年
		ベルガモ大学	2019年
	英国	リーズ大学	1990年
		ロンドン大学聖ジョージ校	2007年
		グラスゴー美術大学	2013年
		ブライトン大学	2014年
		英国王立芸術学院(RCA)	2014年

地域	国名	協定締結機関	発効年
欧州	英国	シェフィールド・ハラム大学 アートデザインリサーチセンター	2015年
		キングストン大学	2015年
		ロンドン芸術大学(UAL)	2018年
	オーストリア	ウィーン工科大学	2012年
	オランダ	デルフト工科大学	2015年
		ArtEZ University of the Arts	2018年
	スイス	チューリッヒ工科大学	2014年
		スイス・イタリア語圏大学 メンドリシオ建築アカデミー	2015年
		Made in Sàrl <建築事務所>	2016年
		ジュネーブ造形芸術大学	2016年
		ルツェルン応用科学芸術大学	2017年
	スペイン	カタロニア工科大学 ESEIAAT	2002年
		バルセロナ材料科学研究所	2012年
	チェコ	リベレツ工科大学	2016年
	デンマーク	デンマーク王立美術アカデミー 建築学部	2012年
		デンマーク王立美術アカデミー デザイン学部	2016年
	ドイツ	シュツットガルト専門大学	2004年
		アーヘン工科大学 機械工学部	2013年
		ミュンヘン工科大学 建築学部	2014年
		ユストゥス・リービッヒ大学ギーセン	2016年
		ケルン応用科学大学	2019年
	ハンガリー	ブダペスト工科経済大学	2015年
	フィンランド	ラハティ応用科学大学	2007年
		アールト大学	2018年
	フランス	パリ・ラ・ヴィレット国立建築大学	1999年
		ヴェルサイユ国立建築大学	2006年
		リール・ドゥーエー工科大学	2007年
		ENSAIT(国立繊維工芸工業高等学院)	2008年
		フランス国立高等研究院	2009年

地域	国名	協定締結機関	発効年
欧州	フランス	パリ=ソルボンヌ大学	2014年
		オルレアン大学	2015年
		パリ・ディドロ大学	2015年
		オートアルザス大学	2018年
	ベルギー	リエージュ大学	2017年
		モンス大学	2018年
		ゲント大学	2019年
オセアニア	オーストラリア	ディーキン大学	2016年
中東	トルコ	ミマール・スィナン芸術大学	2013年
		バムッカレ大学	2016年
北米	カナダ	マニトバ大学	2015年
	米国	アクロン大学	1987年
		ノースカロライナ州立大学	2013年
		テキサス大学アーリントン校	2014年
		ワシントン大学 工学部	2014年
		ウィスコンシン大学マディソン校	2015年
		オーバーン大学 理数学部	2016年
南米	メキシコ	モンテレイ工科大学	2017年

学部等間交流

国名・地域名	協定締結大学部局	協定締結部局等
米国、英国、香港、日本	繊維系7大学連携協定	工芸科学研究科

大学開放事業

本学では、年間を通じて、ユニークな体験学習や公開講座、講演会を実施している。

2018年度開放事業

種別	イベント	実施部局
体験入学 体験学習	「ショウジョウバエの世界へようこそ」　大学の講義を体験してみませんか	昆虫先端研究推進拠点 ショウジョウバエ遺伝資源研究部門
	夏休み体験教室『自然いっぱいの中で畑探検しよう』	昆虫先端研究推進拠点 生物資源フィールド科学研究部門
	冬休み体験教室『冬の畑探検2018　冬のムシとさくもつのひみつ！？』	昆虫先端研究推進拠点 生物資源フィールド科学研究部門
	体験入学2018	応用生物学課程
	大学一日体験入学	応用化学課程
	体験学習「コンピュータのしくみ ～マイコンでプログラミング体験～」	情報工学課程
	創造性豊かなものづくり体験学習	機械工学課程
	「ミニ昆虫展：写真と標本から知る　京の虫たちの不思議な世界 ／ 子ども昆虫教室・子ども繭工作教室」	京都北山やままゆ塾
	オープンキャンパス2018	大学
公開講座 公開講演会	パブリックレクチャー「未来をプロトタイピングする」等	KYOTO Design Lab
	クイントゥス・ミラー講演会「ミラー＆マランタ 近作を語る」	KYOTO Design Lab
	保存再生学特別研究会「20世紀建築遺産の積極的保存活用に向けて」	KYOTO Design Lab
	履修証明プログラム「機械学習基本技能習得プログラム」等	大学
	創立記念日事業「大学の機能強化と産学連携」	大学
	機械学習講習会（公開講座）入門版・概要版	大学
	京のサスティナブルデザイン特別講義「デザインプロデュースの大切さ」等	大学
	育ててみよう！「ヤママユ」	京都北山やままゆ塾
	子ども自然観察会「秋の鳴く虫、探しに行こう!」	京都北山やままゆ塾
	KITライフサイエンスセミナー 「日本から顧みられない熱帯病（NTDs）の撲滅を目指して」等	応用生物学系
	公開講義「認知的インタラクションデザイン学（全9回）」	情報工学専攻
	基盤科学セミナー「ことばのフィールドワーク」	基盤科学系
	ネオファイバーテクノロジープロジェクト研究報告会	繊維科学センター
	繊維科学センター講演会「繊維技術ネットワークによる近未来イノベーション」	繊維科学センター
	電波暗室を使ってのEMC対策基本技術セミナー	グリーンイノベーションラボ
	社会人教育公開講座【分野横断型プロセスプロデューサー育成講座】	ものづくり教育研究センター
	環境科学センター公開講演会「緑の地球と共に生きる」	環境科学センター
	知的財産権セミナー「産学連携と知的財産」	産学公連携推進センター
	KIT男女共同参画推進センターセミナー 「理系のキャリアデザイン2018―未来への新しいかたち―」	KIT男女共同参画推進センター
	機器分析センター市民講座・先端技術講座「最先端技術でものを観る」	機器分析センター
	長もちの講演会	長もちの科学開発センター
	産学連携協力会講演会 「人工知能技術の現状・今後の見通し・社会へのインパクト」	産学連携協力会
	京都松ヶ崎・産学連携フォーラム	産学連携協力会
	先端技術研修「生産現場のIoTリアルタイム計測・診断」	産学公連携推進センター

ほか

大学間交流

本学は、大学間の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的とし、1999年1月に同志社大学、同年3月に京都府立大学、2002年9月に京都教育大学、また、2001年4月から京都地域を中心に約50の大学・短期大学が参加する大学コンソーシアム京都に加盟し、単位互換の協定を締結した。また、2006年10月には京都府立大学および京都府立医科大学と3大学包括協定を締結し、この包括協定に基づく教養教育共同化による単位互換制度を2007年度より開始した。さらに、2010年4月には、京都市立芸術大学、京都産業大学および京都ノートルダム女子大学との間で、2009年度に文部科学省より採択を受けた戦略的大学連携支援プログラム「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」の実施に必要な単位互換協定を締結し、この協定に基づく単位互換を2010年度より開始した。
これに加え、2014年度より京都府立大学・京都府立医科大学と、教養教育共同化を開始し、後学期からは、京都府が整備を進める共同化施設「稲盛記念会館」で授業を実施している。
これら単位互換制度・教養教育共同化事業は、お互いの大学の個性と特色のある授業科目を持ち寄り、互いの教育を補完し、学生の幅広い学習ニーズに応えると共に、学生同士の交流を積極的に推進することを目的としたものである。

2019年度単位互換制度に基づく特別聴講学生の派遣・受入状況

工芸科学部

区分	学期	同志社大学		京都府立大学		京都府立医科大学		京都教育大学		大学コンソーシアム京都		京都ノートルダム女子大学		京都産業大学		合計	
		人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数
派遣	前学期							1	1	4	5					5	6
受入	前学期			5	5					27	30	2	2			34	37

2019年度は工芸科学研究科特別聴講学生の派遣・受入はありません。

（参考）2018年度年間実績

区分＼大学	同志社大学		京都府立大学		京都府立医科大学		京都教育大学		大学コンソーシアム京都		京都ノートルダム女子大学		京都産業大学		合計	
	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数
派遣			5	6					3	7					8	13
受入			3	3					18	18	2	2	3	5	26	28

2019年度京都府立大学・京都府立医科大学との教養教育共同化事業における学生の派遣・受入状況

工芸科学部

区分	学期	京都府立大学		京都府立医科大学		京都三大学教養教育研究・推進機構提供科目		合計	
		人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数
派遣	前学期	986	1,366	256	259	111	123	1,082	1,748
受入	前学期	474	614	161	231			635	845

（参考）2018年度年間実績

区分＼大学	京都府立大学		京都府立医科大学		京都三大学教養教育研究・推進機構提供科目		合計	
	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数	人数	延科目数
派遣	1,057	1,837	399	456	288	367	3,027	2,660
受入	532	869	136	190			668	1,059

大学等連携

本学は、教育研究内容の充実、地域社会への一層の貢献等を目的とし、近隣の大学を中心に積極的に大学等との連携を進めている。

- 京都地域を中心に約50の大学・短期大学が参加する「大学コンソーシアム京都」による連携
- 京都府立大学および京都府立医科大学との3大学の教養教育共同化による連携
- 京都産業大学との連携（学術交流）
- 京都ノートルダム女子大学との連携
- 京都市立芸術大学、京都産業大学、京都ノートルダム女子大学との単位互換連携
- 京都府立医科大学、京都府立大学および京都薬科大学との国公私立4大学によるヘルスサイエンス系の教育研究の連携
- 信州大学、福井大学等との繊維系大学連携
- 同志社大学との単位互換連携
- 京都府立大学との単位互換連携
- 京都教育大学との単位互換連携
- 舞鶴工業高等専門学校との連携
- 近畿地区国立大学法人間の大規模災害等発生時の連携
- 京都府立大学、京都先端科学大学、舞鶴工業高等専門学校および京都文教大学との地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に係る連携

小中高大連携

本学では、地域社会への教育貢献として小中高大連携教育を推進し、出前授業および体験授業等を通して双方の教育改善に資するとともに、次世代を担う青少年に対して、科学技術への関心を高める取り組みを行っている。

小中高大連携事業（2018年度実施事業）

- 「スーパーサイエンスハイスクール」指定校との連携事業
- 「第2回京都サイエンスフェスタ」の共催
- 京都府教育委員会「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」

京都府立山城高等学校
京都府立清明高等学校
京都府立鴨沂高等学校
京都府立北稜高等学校
京都府立朱雀高等学校
京都府立鳥羽高等学校
京都府立桂高等学校
京都府立東宇治高等学校
京都府立莵道高等学校
京都府立城南菱創高等学校
京都府立八幡高等学校
京都府立田辺高等学校
京都府立園部高等学校
京都府立農芸高等学校
京都府立宮津高等学校
京都府立峰山高校弥栄分校
京都府立網野高等学校
京都府立久美浜高等学校
京都府立福知山高等学校附属中学校
城陽市立西城陽中学校
城陽市立南城陽中学校
南丹市立殿田中学校
福知山市立雀部小学校
福知山市立庵我小学校
福知山市立菟原小学校
福知山市立細見小学校
城陽市立深谷小学校
八幡市立くすのき小学校
京田辺市立三山木小学校
京丹後市立峰山小学校
京丹後市立網野南小学校
京丹後市立島津小学校
京丹後市立橘小学校
井手町立多賀小学校
宇治市立笠取小学校
木津川市立州見台小学校
亀岡市立東別院小学校
亀岡市立大井小学校
南丹市立八木西小学校
木津川市立相楽小学校
木津川市立城山台小学校
相楽東部広域連合立笠置小学校
京都府立盲学校

- 地域貢献プロジェクトによる教育事業

京都府立西舞鶴高等学校　ほか
「高校から大学へ～答えのない問題に取り組む～」　ほか
理科わくわく体験教室（京丹後市）
「ピンホールカメラの作製-撮影・暗室での現像体験-」

- その他

京都市立亀岡高等学校との連携事業
「界面化学に関する特別講義及び実験」　ほか
京都市立松ヶ崎小学校との連携事業
「虫たちの世界をのぞいてみよう！（松ヶ崎の宝物：ヤママユについて）」
京丹後市教育支援事業「理科わくわく体験教室in京丹後」
「クワ・カイコ・シルク」

等

地域連携

本学は、千年の歴史をもつ京都の文化をバックグラウンドとして、ものづくりやデザインなどの工学分野で実践的な高度専門技術者を養成する教育を行うとともに、地元の中小企業と共同研究を実施するなど地域に密着した教育研究活動を展開している。
特に、工科系大学のない京都府北部を中心に、ものづくり企業が有する技術・経営課題の解決を図るための取り組みや、小中学生への理数教育支援を推進してきた。
2013年度には、文部科学省2013年度「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、舞鶴工業高等専門学校と連携しながら、京都府北部における、ものづくりや観光産業の振興に取り組んだ。
また、2016年4月には「福知山キャンパス」を設置し、同キャンパスを学修拠点として、地域産業の活性化や地域課題の解決を担う技術者を育成する「地域創生 Tech Program」を開設した。このプログラムを核として、府内各地の地域創生を担う人材育成事業が、文部科学省2015年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、京都府および府下の工業系・商工系経済団体を含む12の機関とともに推進している。
京都における地域貢献の中核となる大学として、京丹後キャンパスや福知山キャンパス、綾部地域連携室（北部産業創造センター内）を拠点に、府内の各自治体や学校、企業等と連携し、地域産業の振興、工学系人材の育成に向けて、各種地域貢献活動を展開している。

京都工芸繊維大学の地域貢献の3本の柱

- 地域振興に資する工学系高度専門技術者の養成
- 工学分野（機械・材料・物質・生命科学・デザイン・建築等の領域）における研究成果の地域への還元
- 地域の企業・学校・市民等への「知」の提供

京都工芸繊維大学のこれまでの連携の実績

- 京都府との包括協定
- 京都市との連携協定
- 京丹後市との包括協定
- 綾部市との包括協定
- 福知山市との包括協定
- 京都府教育委員会との連携協定
- 京都市教育委員会との連携協定
- 地元経済団体・企業・大学との連携

2018年度の主な事業

- 綾部工業研修所との連携による綾部市地域での上級機械技術者育成プログラム（綾部市）
- 京都府中丹地域における中堅技術者養成のための技術研修 –電気科上級コース（綾部市）
- 京丹後市小学生科学体験プログラムによる地域貢献・地域交流（京丹後市）
- インダストリアルIoTに関する人材育成・共同研究開発プロジェクト（京丹後市）
- プラズマを用いた貝類生産のための藻類増殖推進および陸上養殖技術の開発（宮津市）
- 与謝野町と連携した公共施設における再投資計画の策定（与謝野町）
- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 in 福知山 partⅢ（福知山市）
- 個人映像を活用した地域コミュニティにおけるコミュニケーションプラットフォームの創出（福知山市）
- 京都府北中部（丹後、中丹）地域を中心とした小中高生対象の教育連携事業（京都府）
- 高大接続のための京都府北部の高校への理科教育支援 –地域創生 Tech Program生の発掘–（京都府）
- 京都産昆虫種の系統化による保護活動と活用を目的とした環境教育研究（京都市）
- 京都友禅染色へのいざないと染色製品化体験 –現代未来工芸–（京都市）

KIT男女共同参画推進センター

KIT男女共同参画推進センターは2012年に設置され、コーディネータを配置し、研究と生活の両立を支援する研究支援員制度やセミナーの開催、女性研究者の交流促進、情報発信等の活動を行っている。
また、育児・介護に関する情報提供や理系女子のキャリア形成、裾野拡大にも取り組み、支援環境の一層の充実を図っている。

財政状況

貸借対照表

2019年3月31日現在

科目	金額(千円)
資産の部	
Ⅰ.固定資産	34,301,297
1.有形固定資産	33,854,540
2.無形固定資産	140,121
3.投資その他の資産	306,635
Ⅱ.流動資産	2,082,427
現金および預金	1,992,434
未収入金	68,598
その他の流動資産	21,395
資産合計	36,383,724

科目	金額(千円)
負債の部	
Ⅰ.固定負債	4,985,917
Ⅱ.流動負債	2,139,321
負債合計	7,125,238
純資産の部	
Ⅰ.資本金	29,640,105
Ⅱ.資本剰余金	△ 1,006,511
Ⅲ.利益剰余金	624,892
純資産の部合計	29,258,486
負債純資産合計	36,383,724

損益計算書

2018年4月1日～2019年3月31日

科目	金額(千円)
経常費用	8,453,798
業務費	8,085,923
一般管理費	367,165
その他の費用	711
経常収益	8,707,066
運営費交付金収益	4,791,086
学生納付金収益	2,402,320
その他の収益	1,513,660
経常利益	253,268
臨時損失	6,356
当期純利益	246,912
目的積立金取崩	17,801
当期総利益	264,713

収入

2019年度

区分	金額(千円)	比率(%)
運営費交付金	4,898,922	58.6%
施設整備費補助金	140,770	1.7%
補助金等収入	289,698	3.5%
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	21,000	0.3%
自己収入	2,320,799	27.8%
授業料、入学金および検定料収入	2,229,942	26.7%
財産処分収入	0	0.0%
雑収入	90,857	1.1%
産学連携等研究収入および寄附金収入等	670,106	8.0%
引当金取崩	0	0.0%
目的積立金取崩	17,801	0.2%
合計	8,359,097	100.0%

支出

2019年度

区分	金額(千円)	比率(%)
教育研究経費	6,992,457	86.4%
施設整備費	161,770	2.0%
補助金等	284,919	3.5%
産学連携等研究経費および寄附金事業費等	652,179	8.1%
国立大学財務・経営センター施設費納付金	0	0.0%
合計	8,091,324	100.0%

※ 決算報告書ベースによる。
※ 表示単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合があります。
※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じる場合があります。

外部資金受入状況

研究協力

本学では、大学が有する専門的知識と技術を社会に還元し、その発展に貢献するため様々な形で産業界等との研究協力を行っている。
(産学公連携推進センターについては13ページ参照)

区分	2016年度		2017年度		2018年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
民間等との共同研究	132	230,666	127	207,310	121	203,884
受託研究※	66	349,174	64	617,755	57	305,596
学術指導	16	6,782	37	18,948	42	31,918
奨学寄附金	139	111,526	142	119,180	167	126,711
合計	353	698,148	370	963,193	387	668,109

※ 受託研究には、ナショナルバイオリソースプロジェクト等補助金を含む。

科学研究費補助金

区分	2016年度		2017年度		2018年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
新学術領域研究	2	18,070	0	0	0	0
(研究領域提案型)計画研究	2	4,170	0	0	0	0
新学術領域研究	5	13,650	1	2,470	2	4,420
(研究領域提案型)公募研究	5	3,150	1	570	2	1,020
基盤研究(A)	8	108,420	8	76,700	5	61,750
	8	25,020	8	17,700	5	14,250
基盤研究(B)	20	91,260	17	67,340	14	86,060
	20	21,060	17	15,540	14	19,860
基盤研究(C)	84	126,100	79	124,020	80	102,180
	84	29,100	79	28,620	80	23,580
挑戦的萌芽研究	17	29,510	13	14,040	5	4,940
	17	6,810	13	3,240	5	1,140
挑戦的研究(萌芽)			3	6,630	12	37,310
			3	1,530	12	8,610
若手研究(A)	3	27,300	4	33,410	2	7,410
	3	6,300	4	7,710	2	1,710
若手研究(B)	15	21,450	14	14,820	10	12,740
	15	4,950	14	3,420	10	2,940
若手研究					4	6,630
					4	1,530
研究活動スタート支援	5	7,020	3	4,290	3	4,420
	5	1,620	3	990	3	1,020
奨励研究	0	0	1	500	1	530
	0	0	0	0	0	0
国際共同研究加速基金	1	14,040	0	0	0	0
	1	3,240	0	0	0	0
特別研究員奨励費	6	4,900	6	5,410	9	9,010
	0	0	1	210	2	510
研究成果公開促進費	1	1,100	0	0	1	2,400
(学術図書)	0	0	0	0	0	0
合計	167	462,820	149	349,630	148	339,800
	160	105,420	143	79,530	139	76,170

※ 色網部分は間接経費分を内数で示す。

特許等出願状況 ※( )内は企業等との共同

年度		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
発明等届出件数		49	44	55	40	66
特許等出願件数	国内出願※1	38(21)	33(16)	32(19)	40(23)	40(27)
	国際出願※2	4(3)	10(6)	6(4)	10(5)	14(9)
	外国出願※3	16(7)	15(11)	6(4)	19(14)	17(15)

特許権保有件数　185(94)件 (2019年5月1日現在)　内訳　国内:125(59)件、 外国:60(35)件

※1 「国内出願」には基礎出願、国内優先権主張出願、分割出願件数を計上。
※2 「国際出願」には特許協力条約(PCT)に基づく出願件数を計上。
※3 「外国出願」には国ごとに出願した件数(パリ条約に基づく出願、PCT出願・EPC出願後の指定国移行を含む)を計上。

厚生施設／研修施設／課外活動施設等

	施設名	主な利用目的／構造および延面積
厚生施設	**センターホール**	式典、諸行事、特別講義、講演会、公開講座の開催や各種学会の学術講演会等に利用されている。 構造等 鉄筋コンクリート造3階建（地下1階）　延面積2,264㎡
厚生施設	**60周年記念館**	ギャラリーとして使用できるスペース、講義室、大小2種類のセミナー室があり、学外共同研究者の発表会や学会等に利用されている。 構造等 鉄骨造2階建　延面積945㎡
厚生施設	**KIT HOUSE（学生食堂）**	1階には食堂（カフェテリア）、2階にはミニコープ・購買・ブックセンターがあり、学生と教職員のキャンパスライフをサポートしている。 構造等 鉄骨造2階建　延面積1,605㎡
厚生施設	**大学会館**	研修室、ホール、食堂・喫茶などがあり、学生の課外活動や芸術・文化活動、学生と教職員のコミュニケーションの促進の場として利用されている。 構造等 鉄筋コンクリート造3階建　延面積2,166㎡
厚生施設	**松ヶ崎KIT会館**	研究者や教職員等の宿泊や諸会合・研修等に利用できる研究交流施設「工繊会館」、同窓会の拠点として利用できる「同窓会パビリオン」、レセプションルームとして利用できる「KIT倶楽部」の3棟を設置している。 構造等 工繊会館：鉄筋コンクリート造2階建　延面積425㎡ 同窓会パビリオン：木造1階建　延面積81㎡　KIT倶楽部：木造2階建　延面積157㎡
厚生施設	**国際交流会館（まりこうじ会館）**	外国人留学生及び外国人研究者の居住その他国際交流上有意義と認められる場合に利用されている。 構造等 鉄筋コンクリート造4階建　延面積2,869㎡

	施設名	主な利用目的／保有施設／構造および延面積
研修施設	**学道会館**	教育研究活動を側面から支援する目的で日本新薬株式会社及び篤志家より寄附を受け、2006年3月に嵯峨キャンパスに建設した。「学道会館」の名称は、学問を真摯に追求する学徒の集いとなることを考え、道元禅師の「学道用心」を参考にして名付けられた。 施設等 大研修室、小研修室、研究者宿泊室2室、事務室 構造等 鉄骨造2階建　延面積575㎡
研修施設	**京丹後キャンパス 地域連携センター**	教育・研究・社会貢献上の各種事業を実施することにより、京丹後市の企業や市民と様々な分野で交流することを目的として、京丹後市の有期無償貸与により設置された施設である。 本施設は、本学の教職員、学生の教育・研究や、研修、合宿などにも利用されている。 施設等 多目的室、研修室、セミナー室、ラボスペース、宿泊室、リフレッシュスペース 構造等 鉄骨造2階建　延面積1195㎡

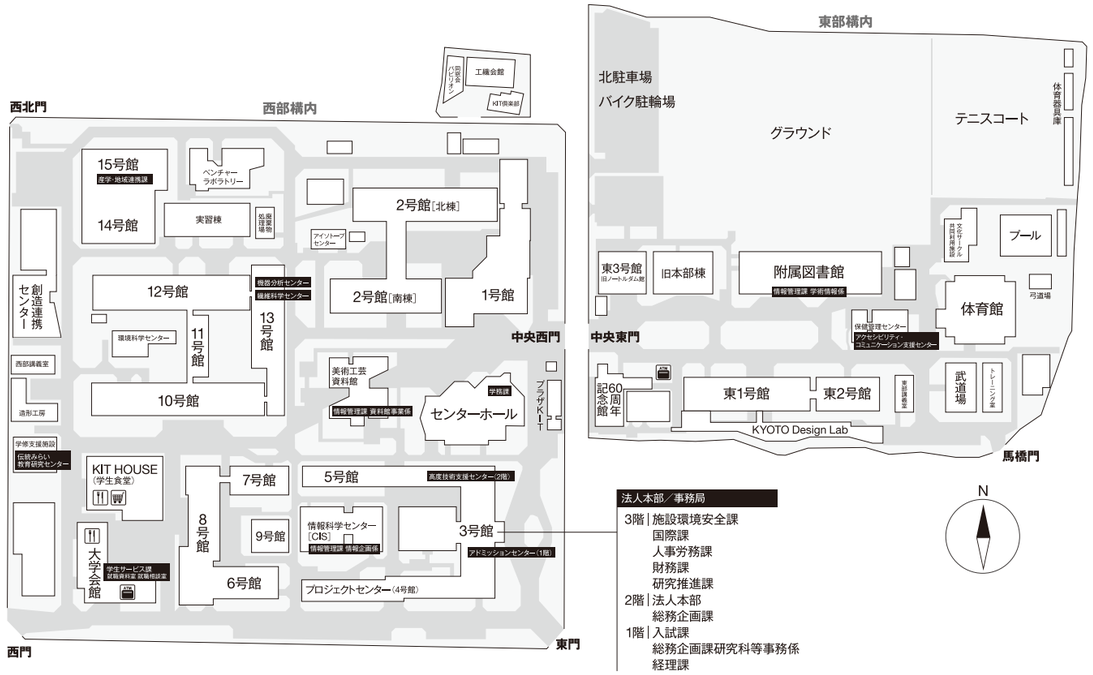
	施設名	保有施設／構造および延面積
課外活動施設等	**大学会館3階**	施設等 文化団体連盟所属課外活動団体用部室、会議室等 構造等 鉄筋コンクリート造3階建　延面積118㎡　※課外活動に供する部分のみ
課外活動施設等	**文化サークル共同利用施設**	施設等 文化団体連盟所属課外活動団体用部室、音楽練習室、暗室 構造等 鉄筋コンクリート造2階建　延面積478㎡
課外活動施設等	**体育館**	施設等 バスケットボール2面、バレーボール2面、バドミントン6面、卓球8面等に使用可能 構造等 鉄骨造平屋建　延面積1,160㎡
課外活動施設等	**武道場・トレーニング室**	施設等 剣道、合気道、空手、トレーニング室、シャワー室、用具室 構造等 鉄筋コンクリート造平屋建　延面積612㎡
課外活動施設等	**弓場**	施設等 弓道6人立、用具庫 構造等 木造平屋建　延面積95㎡
課外活動施設等	**プール**	施設等 25m 7コース、機械室、倉庫、更衣室、シャワー室 構造等 プール: 延面積990㎡　プール附属室：鉄筋コンクリート造平屋建　延面積92㎡
課外活動施設等	**グラウンド**	施設等 野球、サッカー、ラグビー、ラクロス、アメリカンフットボール等 構造等 延面積13,453㎡
課外活動施設等	**テニスコート**	施設等 6面（オムニコート3面、クレーコート3面）、硬式テニス、軟式テニス 構造等 延面積4,215㎡
課外活動施設等	**体育器具庫**	施設等 体育会所属課外活動団体器具庫、洗面、シャワー室 構造等 鉄骨造・プレハブ造2階建　延面積572㎡

土地・建物

	区分	所在地	土地面積	建物面積	建物面積内訳等	
土地・建物	**松ヶ崎キャンパス（東部構内）**	京都市左京区 松ヶ崎橋上町1	49,686㎡ 校舎敷地　31,028㎡ 運動場敷地　17,668㎡ プール敷地　990㎡	23,344㎡	事務局庁舎 校舎 附属図書館 60周年記念館 その他	1,897㎡ 11,490㎡ 4,893㎡ 945㎡ 4,119㎡
土地・建物	**松ヶ崎キャンパス（西部構内）**	京都市左京区 松ヶ崎御所海道町	73,385㎡	82,267㎡	校舎 美術工芸資料館 大学センターホール 大学会館 創造連携センター ベンチャーラボラトリー 13号館 KIT HOUSE その他	64,504㎡ 2,296㎡ 2,264㎡ 2,166㎡ 2,153㎡ 1,510㎡ 3,937㎡ 1,605㎡ 1,832㎡
		京都市左京区 松ヶ崎鞍馬田町15-1	1,184㎡	663㎡	工繊会館 同窓会パビリオン KIT倶楽部	425㎡ 81㎡ 157㎡
		京都市左京区 松ヶ崎修理式町12-2他	5,710㎡	9,649㎡	松ヶ崎学生館 備蓄倉庫	9,550㎡ 99㎡
土地・建物	**国際交流会館**	京都市左京区 吉田泉殿町6-2	1,851㎡	2,869㎡	まりこうじ会館	
土地・建物	**嵯峨キャンパス**	京都市右京区 嵯峨一本木町	58,152㎡	4,771㎡	生物資源フィールド科学教育研究センター ショウジョウバエ遺伝資源センター 学道会館	2,709㎡ 1,487㎡ 575㎡
土地・建物	**エコフィールド**	京都市北区 上賀茂本山	6,069㎡			
土地・建物	**西陣宿舎**	京都市上京区 新町通上御霊前上ル 下清蔵口町483	7,247㎡	3,261㎡		
土地・建物	**等持院宿舎**	京都市北区 等持院南町36-1	1,861㎡	929㎡		
土地・建物	**福知山キャンパス**	福知山市字堀 小字草池3385番地	8,222㎡	3,195㎡	A棟 B棟 C棟 D棟 その他	136㎡ 1,980㎡ 492㎡ 521㎡ 66㎡
土地・建物	**綾部キャンパス**	綾部市青野町 西馬場下38-1	36㎡	36㎡		
	合計		213,403㎡	130,984㎡		

キャンパスマップ

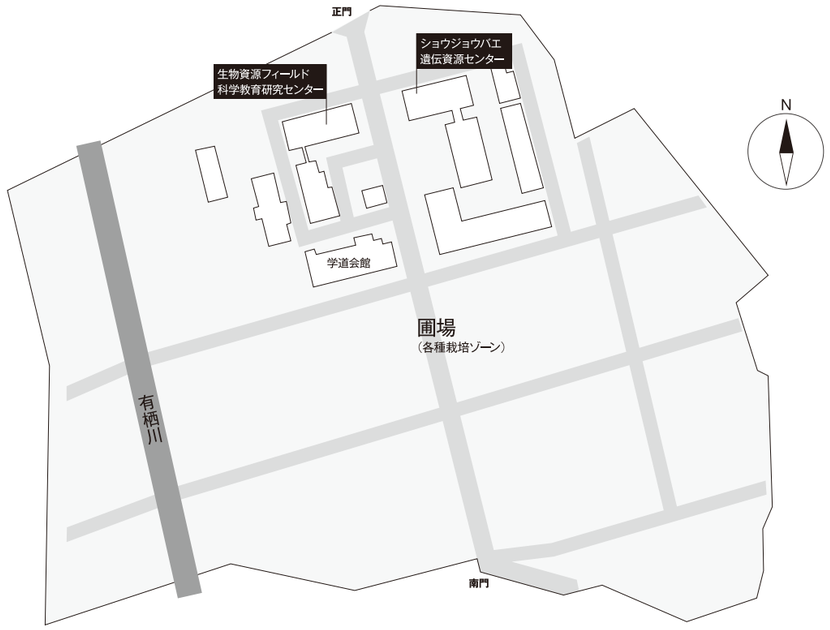
松ヶ崎キャンパス



法人本部／事務局

3階｜施設環境安全課
国際課
人事労務課
財務課
研究推進課
2階｜法人本部
総務企画課
1階｜入試課
総務企画課研究科等事務係
経理課

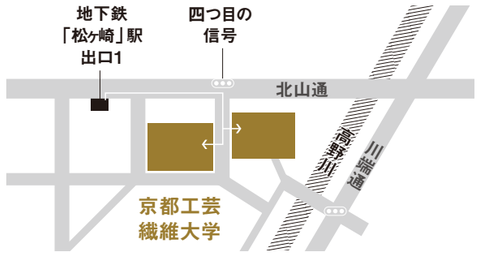
嵯峨キャンパス



アクセスマップ

広域マップ

松ケ崎キャンパス 最寄り駅からのアクセス

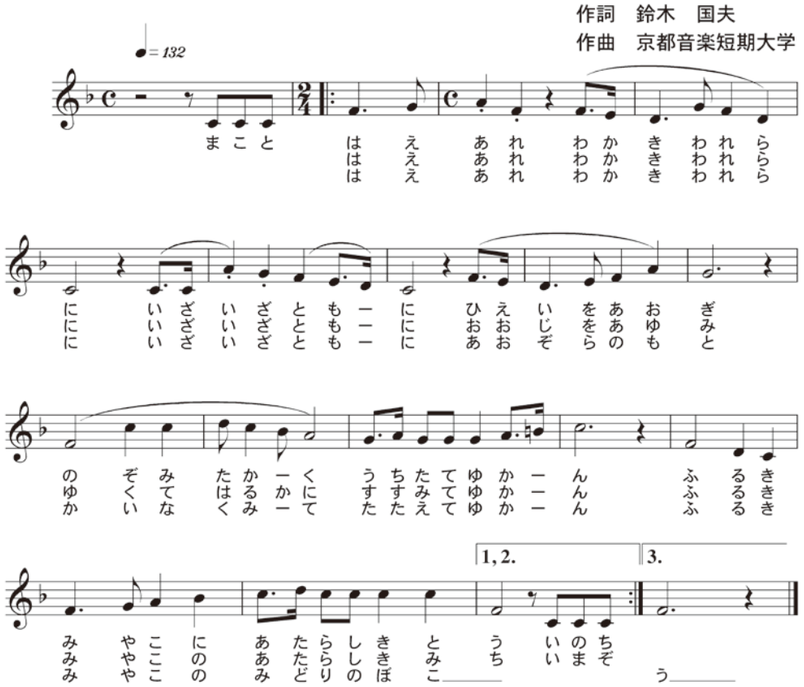


▶ 地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より徒歩8分。
（出口1から東（右）へ進み4つ目の信号を南へ180m）

▶「松ヶ崎」駅へはJR・近鉄「京都」駅から地下鉄烏丸線「国際会館行き」に乗り換え約18分。
※地下鉄烏丸線は、阪急「烏丸」駅からも乗り換え可能です。

京都工芸繊維大学学歌

作詞　鈴木　国夫
作曲　京都音楽短期大学



一
真理栄あれ
若き吾らに
いざいざ共に
比叡を仰ぎ
望み高く
打ちたてゆかん
古き都に
新しき塔

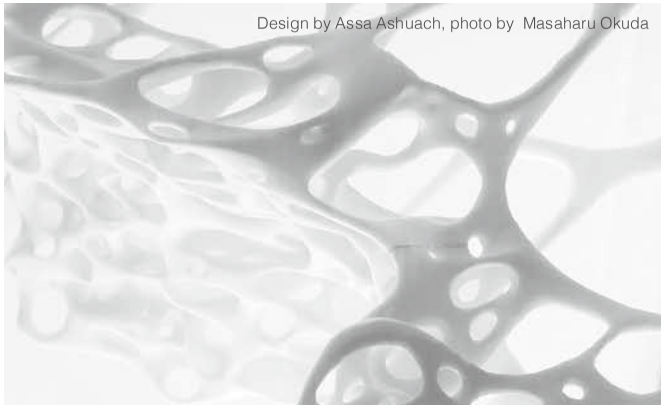
二
命栄あれ
若き吾らに
いざいざ共に
大路を歩み
行くてはるかに
進みてゆかん
古き都の
新しき道

三
今ぞ栄あれ
若き吾らに
いざいざ共に
青空のもと
腕組みて
讃えてゆかん
古き都の
緑の母校

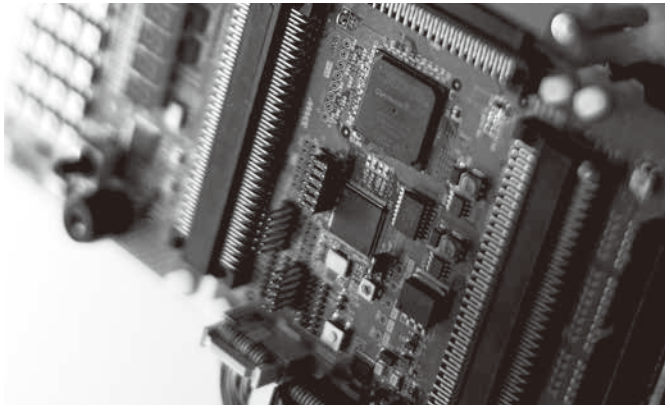
学年暦

4月	入学宣誓式 新入生オリエンテーション 前学期授業開始
5月	大学創立記念日(5月31日)
7月	前学期授業終了
8月	オープンキャンパス 前学期試験 夏季休業
9月	夏季休業 後学期授業開始
11月	松ヶ崎祭(学園祭)
12月	冬季休業
1月	冬季休業 後学期授業終了
2月	後学期試験 春季休業
3月	春季休業 学位記授与式

編集・発行　2019年7月
国立大学法人 京都工芸繊維大学広報委員会
〒606-8585　京都市左京区松ケ崎橋上町　TEL 075-724-7016　https://www.kit.ac.jp
Copyright © 2019 Kyoto Institute of Technology All Rights Reserved.



Design by Assa Ashuach, photo by Masaharu Okuda



KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY